

上原横穴墓群 II

一般国道10号線中津バイパス埋蔵文化財発掘調査報告書(2)

1992年3月

大分県教育委員会

上ノ原横穴墓群Ⅱ

一般国道10号線中津バイパス埋蔵文化財発掘調査報告書(2)

1 9 9 1 年 3 月

大分県教育委員会

例 言

1. 本書は一般国道10号線中津バイパス建設に伴う事前調査のうち昭和55年から昭和60年まで調査した下毛郡三光村上ノ原横穴墓群の発掘調査報告書の遺構・遺物編Ⅱおよび考察編である。
2. 調査は建設省九州地方建設局大分工事事務所の委託事業として大分県教育委員会が実施した。
3. 本書の執筆はⅢ遺構については調査担当者のうち土層観察を主にした者が、人骨についての記述は九州大学医学部第二解剖学教室土肥直美助手、同文学部文化史研究室比較考古学部門田中良之助教授に依頼した。なおⅣ考察編の執筆には田中・土肥氏以外に粉川昭平（大阪市立大学名誉教授）、千田昇（大分大学教授）、小田一幸（九州大学助手）、三辻利一（奈良教育大学教授）、小池裕子（埼玉大学助教授）、後藤宗俊（別府大学教授）、山田拓伸（県立宇佐歴史民俗資料館）、の諸先生に玉稿を賜わった。また、遺構、考察ともに文末、文頭に名前を記し責任を明記した。なお、サマリーについては、ケンブリッジ大学博士課程溝口孝司氏に一部依頼した。
4. 本書の編集は渋谷・村上・田中・土肥・吉留が協議し、主として村上が吉武の協力を得て行った。

本文目次

Ⅲ. 上ノ原横穴墓群の調査

41号横穴墓	1
42号横穴墓	6
43号横穴墓	8
44号横穴墓	31
45号横穴墓	36
46号横穴墓	45
47号横穴墓	49
48号横穴墓	64
49号横穴墓	69
50号横穴墓	76
51号横穴墓	80
2号石蓋土壙墓	97
52号横穴墓	98
53号横穴墓	102
54号横穴墓	109
55号横穴墓	133
56号横穴墓	154
57号横穴墓	159
58号横穴墓	167
59号横穴墓	170
60号横穴墓	184
61号横穴墓	187
62号横穴墓	198
63号横穴墓	208
64号横穴墓	214
65号横穴墓	229
66号横穴墓	237
67号横穴墓	240
68号横穴墓	251
69号横穴墓	273
70号横穴墓	283

71号横穴墓	287
72号横穴墓	295
73号横穴墓	297
74号横穴墓	300
75号横穴墓	304
76号横穴墓	306
77号横穴墓	309
78号横穴墓	311
79号横穴墓	319
80号横穴墓	321
81号横穴墓	337
1・2号溝	345
IV. 考察	376
1. 中津平野の地形	376
2. 遺構	385
(1) 横穴墓の時期と形態変遷	385
(2) 横穴墓の時期と分布の特徴	387
(3) 工具痕から見た横穴墓の掘削具について	391
3. 遺物	395
(1) 装身具	395
(ア) 貝輪—古墳時代に於ける九州出土の貝輪—	395
(イ) 銅釧—古墳時代に於ける九州出土の銅釧—	406
(ウ) 上ノ原横穴墓群出土の玉類	408
(2) 鉄器	415
(ア) 刀装具の銀象嵌装飾文様について	415
(イ) 51号横穴墓出土の圭頭太刀とその佩用金具について	419
(ウ) 鉄鏃の形式分類と出土状態について	421
(エ) 金属製品の保存処理について	425
(3) 土器	427
(ア) 須恵器・土師器の編年	427
(イ) 特殊な土器について	432
(ウ) 土器のヘラ記号について	434
(エ) 土器の蛍光x線分析について	444
(4) 自然遺物	460

(ア) 炭化植物の同定について	460
(イ) 炭化材の樹種同定について	461
4. 人骨	467
(1) 上ノ原横穴墓出土の古墳時代人骨について	467
(2) 上ノ原横穴墓群出土人骨の $\delta^{13}\text{C}$ 測定による食性分析	484
5. 総括	488
(1) 上ノ原横穴墓群被葬者の親族構造	488
(2) 上ノ原横穴墓群における武器所有形態による階層変遷	509
(3) 上ノ原横穴墓群における葬送儀礼の諸相	510
(4) 上ノ原横穴墓群被葬者の集団関係	515
(5) 上ノ原墳墓群の変遷	519
(6) 上ノ原横穴墓群の保存をめぐる	522
(7) 上ノ原台地周辺の集落・耕地・墓地の変遷	523
6. 附編	528
(1) 大分県の横穴墓	528
(2) 大宝二年豊前国上三毛郡塔里戸籍について	533

SUMMARY

插图目次

第237图	41号横穴墓周边平面图	1
第238图	41号横穴墓平・断面图	2
第239图	41号横穴墓縦断土層及び遺物垂直分布图	3
第240图	41号横穴墓出土遺物実測图	4
第241图	42号横穴墓平・断面图	7
第242图	42号横穴墓出土土器ヘラ記号	8
第243图	42号横穴墓縦断土層及び遺物垂直分布图	9
第244图	42号横穴墓出土遺物実測图(1)	10
第245图	42号横穴墓出土遺物実測图(2)	11
第246图	42号横穴墓出土遺物実測图(3)	12
第247图	42号横穴墓出土遺物実測图(4)	13
第248图	43号横穴墓平・断面图	19
第249图	43号横穴墓縦断土層及び遺物垂直分布图	20
第250图	43号横穴墓出土遺物実測图(1)	21
第251图	43号横穴墓出土遺物実測图(2)	22
第252图	43号横穴墓出土遺物実測图(3)	23
第253图	43号横穴墓出土遺物実測图(4)	24
第254图	43号横穴墓出土遺物実測图(5)	25
第255图	43号横穴墓出土土器ヘラ記号	26
第256图	44号横穴墓縦断土層及び遺物垂直分布图	31
第257图	44号横穴墓平・断面图	32
第258图	44号横穴墓出土遺物実測图	34
第259图	45号横穴墓周边平面图	36
第260图	45号横穴墓平・断面图	37
第261图	45号横穴墓縦断土層及び遺物垂直分布图	38
第262图	45号横穴墓出土遺物実測图(1)	40
第263图	45号横穴墓出土遺物実測图(2)	41
第264图	45号横穴墓出土遺物実測图(3)	42
第265图	46号横穴墓縦断土層图	45
第266图	46号横穴墓平・断面图	46
第267图	46号横穴墓出土遺物実測图	47
第268图	47号横穴墓平・断面图	50
第269图	47号横穴墓縦断土層及び遺物垂直分布图	52
第270图	47号横穴墓出土遺物実測图(1)	53
第271图	47号横穴墓出土遺物実測图(2)	54
第272图	47号横穴墓出土遺物実測图(3)	55
第273图	47号横穴墓出土遺物実測图(4)	56
第274图	47号横穴墓出土土器ヘラ記号	57
第275图	48号横穴墓縦断土層图	64
第276图	48号横穴墓玄室内人骨及び遺物出土状態	65

第277図	48号横穴墓平・断面図	66
第278図	48号横穴墓出土遺物実測図	67
第279図	49号横穴墓周辺平面図	69
第280図	49号横穴墓平・断面図	70
第281図	49号横穴墓縦断土層及び遺物垂直分布図	71
第282図	49号横穴墓出土遺物実測図(1)	72
第283図	49号横穴墓出土遺物実測図(2)	73
第284図	49号横穴墓出土土器ヘラ記号	75
第285図	50号横穴墓縦断土層図	76
第286図	50号横穴墓平・断面図	77
第287図	50号横穴墓玄室内人骨及び遺物出土状態	78
第288図	50号横穴墓出土遺物実測図	78
第289図	51号横穴墓平・断面図	81
第290図	51号横穴墓縦断土層及び遺物垂直分布図	82
第291図	51号横穴墓出土遺物実測図(1)	84
第292図	51号横穴墓出土遺物実測図(2)	85
第293図	51号横穴墓出土遺物実測図(3)	86
第294図	51号横穴墓出土遺物実測図(4)	87
第295図	51号横穴墓出土遺物実測図(5)	88
第296図	51号横穴墓出土遺物実測図(6)	89
第297図	51号横穴墓出土土器ヘラ記号	90
第298図	2号石蓋土壙墓平・断面図	97
第299図	52号横穴墓縦断土層図	98
第300図	52号横穴墓平・断面図	99
第301図	52号横穴墓玄室内人骨及び遺物出土状態	101
第302図	53号横穴墓平・断面図	103
第303図	53号横穴墓縦断土層及び遺物垂直分布図	104
第304図	同出土土器ヘラ記号	105
第305図	53号横穴墓出土遺物実測図(1)	106
第306図	53号横穴墓出土遺物実測図(2)	107
第307図	54・55号横穴墓周辺平面図	109
第308図	54号横穴墓平・断面図	111
第309図	54号横穴墓縦断土層及び遺物垂直分布図	113
第310図	54号横穴墓出土遺物実測図(1)	114
第311図	54号横穴墓出土遺物実測図(2)	115
第312図	54号横穴墓出土遺物実測図(3)	116
第313図	54号横穴墓出土遺物実測図(4)	117
第314図	54号横穴墓出土遺物実測図(5)	118
第315図	54号横穴墓出土遺物実測図(6)	119
第316図	54号横穴墓出土遺物実測図(7)	120
第317図	54号横穴墓出土土器ヘラ記号(1)	121
第318図	54号横穴墓出土土器ヘラ記号(2)	122

第319図	55号横穴墓平・断面図	134
第320図	55号横穴墓縦断土層及び遺物垂直分布図	136
第321図	55号横穴墓出土土器ヘラ記号	137
第322図	55-A号横穴墓出土遺物実測図(1)	138
第323図	55-A号横穴墓出土遺物実測図(2)	139
第324図	55-A号横穴墓出土遺物実測図(3)	140
第325図	55-A号横穴墓出土遺物実測図(4)	141
第326図	55-A号横穴墓出土遺物実測図(5)	142
第327図	55-A号横穴墓出土遺物実測図(6)	143
第328図	55-B号横穴墓出土遺物実測図	144
第329図	56号横穴墓周辺平面図	154
第330図	56号横穴墓平・断面図	155
第331図	56号横穴墓縦断土層図	156
第332図	同出土土器ヘラ記号	156
第333図	56号横穴墓出土遺物実測図	157
第334図	57号横穴墓平・断面図	160
第335図	57号横穴墓縦断土層及び遺物垂直分布図	161
第336図	57号横穴墓出土遺物実測図(1)	162
第337図	57号横穴墓出土遺物実測図(2)	163
第338図	57号横穴墓出土土器ヘラ記号	163
第339図	58号横穴墓平・断面図	168
第340図	58号横穴墓出土遺物実測図	169
第341図	59号横穴墓平・断面図	171
第342図	59号横穴墓ポケット状横穴遺物出土状態	172
第343図	59号横穴墓縦断土層及び遺物垂直分布図	173
第344図	59号横穴墓出土遺物実測図(1)	174
第345図	59号横穴墓出土遺物実測図(2)	175
第346図	59号横穴墓出土遺物実測図(3)	176
第347図	59号横穴墓出土遺物実測図(4)	177
第348図	59号横穴墓出土土器ヘラ記号	178
第349図	60号横穴墓周辺平面図	184
第350図	60号横穴墓平・断面図	185
第351図	60号横穴墓縦断土層図	186
第352図	61号横穴墓平・断面図	188
第353図	61号横穴墓縦断土層及び遺物垂直分布図	189
第354図	61号横穴墓出土土器ヘラ記号	190
第355図	61号横穴墓出土遺物実測図(1)	191
第356図	61号横穴墓出土遺物実測図(2)	192
第357図	61号横穴墓出土遺物実測図(3)	193
第358図	62号横穴墓縦断土層及び遺物垂直分布図	198
第359図	62号横穴墓平・断面図	199
第360図	62号横穴墓出土遺物実測図(1)	201

第361図	62号横穴墓出土遺物実測図(2)	202
第362図	63号横穴墓平・断面図	209
第363図	63号横穴墓縦断土層図	210
第364図	63号横穴墓玄室内人骨及び遺物出土状態	211
第365図	63号横穴墓出土遺物実測図	213
第366図	64号横穴墓テラス平面図	214
第367図	64号横穴墓平・断面図	215
第368図	64号横穴墓縦断土層図	216
第369図	64号横穴墓テラス遺物出土状態	216
第370図	64号横穴墓玄室内人骨及び遺物出土状態	217
第371図	64号横穴墓出土遺物実測図(1)	220
第372図	64号横穴墓出土遺物実測図(2)	221
第373図	65号横穴墓平・断面図	230
第374図	65号横穴墓縦断土層及び遺物垂直分布図	231
第375図	65号横穴墓出土遺物実測図(1)	232
第376図	65号横穴墓出土遺物実測図(2)	233
第377図	65号横穴墓出土遺物実測図(3)	234
第378図	66号横穴墓縦断土層図	237
第379図	66号横穴墓平・断面図	238
第380図	66号横穴墓出土遺物実測図	239
第381図	67号横穴墓平・断面図	241
第382図	67号横穴墓縦断土層及び遺物垂直分布図	242
第383図	67号横穴墓出土土器ヘラ記号	243
第384図	67号横穴墓出土遺物実測図(1)	244
第385図	67号横穴墓出土遺物実測図(2)	245
第386図	67号横穴墓出土遺物実測図(3)	246
第387図	67号横穴墓出土遺物実測図(4)	247
第388図	68号横穴墓縦断土層及び遺物垂直分布図	251
第389図	68号横穴墓平・断面図	252
第390図	68号横穴墓出土遺物実測図(1)	254
第391図	68号横穴墓出土遺物実測図(2)	255
第392図	68号横穴墓出土遺物実測図(3)	256
第393図	68号横穴墓出土遺物実測図(4)	257
第394図	68号横穴墓出土遺物実測図(5)	258
第395図	同出土土器ヘラ記号	258
第396図	69号横穴墓平・断面図	274
第397図	69号横穴墓縦断土層及び遺物垂直分布図	275
第398図	69号横穴墓出土土器ヘラ記号	276
第399図	69号横穴墓出土遺物実測図(1)	277
第400図	69号横穴墓出土遺物実測図(2)	278
第401図	69号横穴墓出土遺物実測図(3)	279
第402図	70号横穴墓縦断土層図	283

第403図	70号横穴墓平・断面図	284
第404図	70号横穴墓出土遺物実測図	285
第405図	71号横穴墓周辺平面図	287
第406図	71号横穴墓平・断面図	288
第407図	71号横穴墓縦断土層及び遺物垂直分布図	290
第408図	71号横穴墓出土遺物実測図(1)	291
第409図	71号横穴墓出土遺物実測図(2)	292
第410図	71号横穴墓出土遺物実測図(3)	293
第411図	同出土土器ヘラ記号	293
第412図	72号横穴墓平・断面図	296
第413図	73号横穴墓周辺平面図	297
第414図	73号横穴墓平・断面図	298
第415図	73号横穴墓縦断土層図	299
第416図	73号横穴墓出土遺物実測図	299
第417図	同出土土器ヘラ記号	299
第418図	74号横穴墓縦断土層図	301
第419図	74号横穴墓平・断面図	302
第420図	74号横穴墓出土遺物実測図	303
第421図	75号横穴墓平・断面図及び縦断土層図	305
第422図	76号横穴墓縦断土層図	306
第423図	76号横穴墓平・断面図	307
第424図	76号横穴墓出土遺物実測図	308
第425図	77号横穴墓周辺平面図	309
第426図	77号横穴墓平・断面図及び縦断土層図	310
第427図	78号横穴墓平・断面図	311
第428図	78号横穴墓出土遺物実測図(1)	312
第429図	78号横穴墓出土遺物実測図(2)	313
第430図	79号横穴墓周辺平面図	319
第431図	79号横穴墓平・断面図	320
第432図	80号横穴墓周辺平面図	321
第433図	80号横穴墓平・断面図	322
第434図	80号横穴墓縦断土層及び遺物垂直分布図	323
第435図	80号横穴墓出土遺物実測図(1)	325
第436図	80号横穴墓出土遺物実測図(2)	326
第437図	80号横穴墓出土遺物実測図(3)	327
第438図	80号横穴墓出土遺物実測図(4)	328
第439図	80号横穴墓出土遺物実測図(5)	329
第440図	80号横穴墓出土遺物実測図(6)	330
第441図	80号横穴墓出土土器ヘラ記号	337
第442図	81号横穴墓平・断面図	339
第443図	81号横穴墓縦断土層及び遺物垂直分布図	340
第444図	81号横穴墓出土遺物実測図(1)	341

第445図	81号横穴墓出土遺物実測図(2)	342
第446図	81号横穴墓出土土器ヘラ記号	342
第447図	1号溝出土遺物実測図	345
第448図	24・28・31・33・36・38・40号横穴墓出土遺物実測図	346
第449図	18号横穴墓出土貝製品実測図	347
第450図	36・38号横穴墓出土土器ヘラ記号	348
第451図	中津扇状地の地形	377
第452図	中津平野の微地形	379
第453図	中津平野の地形面分類図	380
第454図	中津平野の沖積面の地形分類図	380
第455図	地質調査所A地点の地質柱状図	383
第456図	中津平野の沖積地の南北地質断面図	384
第457図	上ノ原横穴墓群出土工具実測図	392
第458図	24号横穴墓玄室内工具痕拓影図	393
第459図	24・36号横穴墓玄室内工具痕拓影図	394
第460図	繁根本型貝輪実測図	396
第461図	古墳時代の貝輪分布図	397
第462図	世利門・臼塚古墳出土貝輪実測図	398
第463図	イモガイ横型貝輪着装者の男女比	400
第464図	勾玉材質別構成比	408
第465図	上ノ原横穴墓群出土管玉計測図	408
第466図	丸玉材質別構成比	409
第467図	ガラス小玉色別構成比	409
第468図	塚廻り古墳群出土人物埴輪頸飾り集成図	412
第469図	人物埴輪頸飾り集成図	412
第470図	刀装具鏝の象嵌文様	416
第471図	福岡県柿原D地区8号墳出土遺物	419
第472図	凧用金具の変遷	419
第473図	鉄鏃分類要素模式図	421
第474図	上ノ原横穴墓群出土鉄鏃編年表	422
第475図	上ノ原横穴群出土土師器編年表	430
第476図	特殊な土器実測図	432
第477図	ヘラ記号土器の器種別割合	434
第478図	ヘラ記号土器出土横穴墓分布図	435
第479図	山田東窯出土須恵器のRb-Sr分布図	445
第480図	伊藤田群と山田東窯の相互識別	445
第481図	宗像群の須恵器のRb-Sr分布図	446
第482図	伊藤田群と宗像群の相互識別	446
第483図	大阪陶邑群と宗像群の相互識別	447
第484図	大阪陶邑群産と推定されたもののRb-Sr分布図(1)	447
第485図	大阪陶邑群産と推定されたもののRb-Sr分布図(2)	447
第486図	伊藤田群産と推定されたもののRb-Sr分布図(1)	448

第487図	伊藤田群産と推定されたものの Rb-Sr 分布図(2).....	448
第488図	宗像群産と推定されたものの Rb-Sr 分布図.....	448
第489図	産地不明となったものの Rb-Sr 分布図.....	448
第490図	土師器のクラスター分析.....	448
第491図	土師器の Rb-Sr 分布図.....	449
第492図	炭化物表皮電子顕微鏡写真.....	460
第493図	炭化材顕微鏡写真(1).....	463
第494図	炭化材顕微鏡写真(2).....	464
第495図	炭化材顕微鏡写真(3).....	465
第496図	頭蓋最大長、最大幅.....	470
第497図	頭蓋最大長と最大幅の比較.....	470
第498図	上顔高、中顔高.....	471
第499図	上顔高と中顔高の比較.....	471
第500図	眼窩幅、眼窩高.....	471
第501図	眼窩幅と眼窩高の比較.....	471
第502図	顔面平坦度の比較.....	473
第503図	西日本における古墳時代抜歯人骨の分布.....	478
第504図	上ノ原古墳人と各集団とのペンローズ.....	480
第505図	頭蓋計測値 9 項目のペンローズ形態距離に基づくクラスター分析.....	481
第506図	頭蓋計測値 9 項目のペンローズ平均距離に基づくクラスター分析.....	481
第507図	上ノ原出土人骨およびその他の古墳時代遺跡出土人骨の $\delta^{13}\text{C}$ 値の分布.....	486
第508図	上ノ原横穴墓群とその他の古墳時代男性人骨の $\delta^{13}\text{C}$ 値の分布.....	486
第509図	上ノ原横穴墓群出土人骨および近隣遺跡出土人骨の $\delta^{13}\text{C}$ 値の分布.....	487
第510図	11号横穴墓被葬者の親族関係モデル.....	493
第511図	21号横穴墓被葬者の親族関係モデル.....	493
第512図	25号横穴墓被葬者の親族関係モデル.....	493
第513図	27号横穴墓被葬者の親族関係モデル.....	494
第514図	63号横穴墓被葬者の親族関係モデル.....	494
第515図	30号横穴墓被葬者の親族関係モデル.....	494
第516図	21号横穴墓被葬者の Q-相関係数に基づくクラスター分析.....	495
第517図	上ノ原横穴墓群への埋葬の基本モデル.....	497
第518図	63・64・65号横穴墓被葬者の家系的連続.....	499
第519図	35号横穴墓被葬者の世代構成.....	502
第520図	上ノ原横穴墓群 (20号~30号) における家系の連続.....	504
第521図	上ノ原横穴墓群における埋葬システム.....	505
第522図	上ノ原横穴墓群階層変遷図.....	509
第523図	8号横穴墓玄室内配列埋置土器出土状態.....	510
第524図	17号横穴墓玄室内一括埋置土器出土状態.....	510
第525図	26号横穴墓墓道部破碎散布土器出土状態.....	511
第526図	5号横穴墓前庭部配列埋置土器出土状態.....	512
第527図	20号横穴墓墓道部配列埋置及び破碎散布土器出土状態.....	513
第528図	18号横穴墓墓道部一括埋置土器出土状態.....	513

第529図	59号横穴墓ポケット状横穴配列埋置土器出土状態	513
第530図	11号横穴墓テラス状遺構破碎散布甕出土状態	514
第531図	25号横穴墓テラス配列埋置及び破碎散布土器出土状態	514
第532図	上ノ原横穴墓群築造時期一覧表	516
第533図	上ノ原横穴墓群築造時期一覧表	517
第534図	上ノ原横穴墓群周辺墳墓分布図	520
第535図	上ノ原台地周辺の遺跡と地形概念図	524
第536図	上ノ原台地周辺の集落・耕地・墓地の変遷概念図	526

表 目 次

第91表	41号横穴墓出土土器觀察表	5
第92表	41号横穴墓出土鉄器觀察表	5
第93表	42号横穴墓出土土器觀察表	14
第94表	42号横穴墓出土鉄器觀察表	17
第95表	43号横穴墓出土土器觀察表	27
第96表	43号横穴墓出土鉄器觀察表	30
第97表	43号横穴墓出土耳環計測表	30
第98表	44号横穴墓出土土器觀察表	35
第99表	44号横穴墓出土鉄器觀察表	35
第100表	45号横穴墓出土土器觀察表	42
第101表	45号横穴墓出土鉄器觀察表	44
第102表	46号横穴墓出土土器觀察表	48
第103表	46号横穴墓出土鉄器觀察表	48
第104表	47号横穴墓出土耳環計測表	57
第105表	47号横穴墓出土土器觀察表	58
第106表	47号横穴墓出土鉄器觀察表	63
第107表	48号横穴墓出土土器觀察表	68
第108表	48号横穴墓出土鉄器觀察表	68
第109表	48号横穴墓出土骨角器觀察表	68
第110表	48号横穴墓出土玉類計測表	68
第111表	49号横穴墓出土土器觀察表	74
第112表	49号横穴墓出土鉄器觀察表	75
第113表	49号横穴墓出土玉類計測表	75
第114表	50号横穴墓出土鉄器觀察表	78
第115表	51号横穴墓出土土器觀察表	90
第116表	51号横穴墓出土鉄器觀察表	94
第117表	51号横穴墓出土玉類計測表	95
第118表	53号横穴墓出土鉄器觀察表	105
第119表	53号横穴墓出土土器觀察表	108
第120表	54号横穴墓出土鉄器觀察表	112
第121表	54号横穴墓出土土器觀察表	123
第122表	54号横穴墓出土耳環計測表	127
第123表	54号横穴墓出土玉類計測表	128
第124表	55号横穴墓出土土器觀察表	144
第125表	55-A号横穴墓出土鉄器觀察表	149
第126表	55-A号横穴墓出土耳環計測表	149
第127表	55-A号横穴墓出土玉類計測表	150
第128表	56号横穴墓出土土器觀察表	158
第129表	56号横穴墓出土鉄器觀察表	158
第130表	56号横穴墓出土耳環計測表	158

第131表	56号横穴墓出土玉類計測表	158
第132表	57号横穴墓出土土器觀察表	164
第133表	57号横穴墓出土鉄器觀察表	164
第134表	57号横穴墓出土耳環計測表	164
第135表	57号横穴墓出土玉類計測表	165
第136表	58号横穴墓出土鉄器觀察表	169
第137表	59号横穴墓出土土器觀察表	178
第138表	59号横穴墓出土鉄器觀察表	181
第139表	59号横穴墓出土耳環計測表	181
第140表	59号横穴墓出土石器觀察表	182
第141表	59号横穴墓出土玉類計測表	182
第142表	61号横穴墓出土土器觀察表	194
第143表	61号横穴墓出土鉄器觀察表	196
第144表	61号横穴墓出土耳環計測表	196
第145表	61号横穴墓出土玉類計測表	196
第146表	62号横穴墓出土土器觀察表	200
第147表	62号横穴墓出土鉄器觀察表	203
第148表	62号横穴墓出土貝製品計測表	204
第149表	62号横穴墓出土玉類計測表	204
第150表	63号横穴墓出土鉄器觀察表	213
第151表	64号横穴墓出土土器觀察表	222
第152表	64号横穴墓出土鉄器觀察表	223
第153表	64号横穴墓出土玉類計測表	223
第154表	65号横穴墓出土土器觀察表	235
第155表	65号横穴墓出土鉄器觀察表	236
第156表	65号横穴墓出土耳環計測表	236
第157表	66号横穴墓出土玉類計測表	239
第158表	67号横穴墓出土土器觀察表	248
第159表	67号横穴墓出土鉄器觀察表	250
第160表	67号横穴墓出土玉類計測表	250
第161表	68号横穴墓出土土器觀察表	259
第162表	68号横穴墓出土玉類計測表	260
第163表	69号横穴墓出土土器觀察表	280
第164表	69号横穴墓出土鉄器觀察表	282
第165表	69号横穴墓出土耳環・貝輪・銅釧計測表	282
第166表	69号横穴墓出土玉類計測表	282
第167表	70号横穴墓出土鉄器觀察表	286
第168表	70号横穴墓出土玉類計測表	286
第169表	71号横穴墓出土土器觀察表	293
第170表	71号横穴墓出土鉄器觀察表	294
第171表	71号横穴墓出土耳環計測表	294
第172表	71号横穴墓出土玉類計測表	294

第173表	73号横穴墓出土土器観察表	300
第174表	73号横穴墓出土玉類計測表	300
第175表	74号横穴墓出土土器観察表	303
第176表	74号横穴墓出土鉄器観察表	303
第177表	76号横穴墓出土鉄器観察表	308
第178表	78号横穴墓出土玉類計測表	314
第179表	80号横穴墓出土土器観察表	331
第180表	80号横穴墓出土鉄器観察表	334
第181表	80号横穴墓出土耳環計測表	334
第182表	80号横穴墓出土銅釧計測表	334
第183表	80号横穴墓出土玉類計測表	335
第184表	81号横穴墓出土土器観察表	343
第185表	81号横穴墓出土鉄器観察表	344
第186表	81号横穴墓出土耳環計測表	344
第187表	上ノ原横穴墓群一覧表	349
第188表	1～40号横穴墓遺物出土地点一覧表（上ノ原横穴墓群Ⅰ）	357
第189表	上ノ原横穴墓群出土人骨一覧表	365
第190表	上ノ原横穴墓群形態分類表	386
第191表	上ノ原横穴墓群形態一覧表	386
第192表	上ノ原横穴墓群築造時期表	387
第193表	古墳時代の九州出土貝輪地名表	402
第194表	銅釧出土地名表	406
第195表	碧玉製切子玉出土地名表	410
第196表	各横穴墓の出土玉類構成パターン	411
第197表	上ノ原横穴墓群出土玉類一覧表	414
第198表	鉄鏃出土横穴対称表	423
第199表	形式別に見た鉄鏃出土数	425
第200表	上ノ原横穴墓群出土土器編年対称表	431
第201表	ヘラ記号土器出土横穴墓一覧	440
第202表	器種別にみた各ヘラ記号の数	442
第203表	横穴墓におけるヘラ記号土器出土数	443
第204表	土器の分析値	451
第205表	須恵器の産地推定	455
第206表	産地推定された須恵器の器形による分類	459
第207表	産地推定された須恵器の横穴墓ごとの分類	459
第208表	上ノ原横穴墓群出土人骨一覧	467
第209表	出土人骨の性・年齢構成	468
第210表	上ノ原頭蓋計測値、示数	469
第211表	頭蓋主要計測値の比較	470
第212表	上ノ原顔面平坦度	472
第213表	顔面平坦度の比較（男性）	473
第214表	頭蓋非計測的形質の出現頻度	474

第215表	非計測的形質の共有関係	474
第216表	上ノ原上腕骨計測値、示数	475
第217表	上腕骨計測値の比較	475
第218表	上ノ原大腿骨計測値、示数	475
第219表	大腿骨計測値の比較	476
第220表	上ノ原脛骨計測値、示数	477
第221表	脛骨計測値の比較	477
第222表	上ノ原腓骨計測値、示数	478
第223表	上ノ原古墳人推定身長	478
第224表	推定身長の比較	478
第225表	上ノ原および他の古墳人にみられた抜歯型式	479
第226表	頭蓋計測値9項目に基づくベンロースの距離	480
第227表	上ノ原横穴墓群およびその他の古墳時代遺跡出土人骨のコラーゲン収量と $\delta^{13}\text{C}$ 値	485
第228表	21号横穴墓被葬者のQ-相関係数	495
第229表	25号横穴墓被葬者のQ-相関係数	496
第230表	27号横穴墓被葬者のQ-相関係数	496
第231表	30号横穴墓被葬者のQ-相関係数	496
第232表	63号横穴墓被葬者のQ-相関係数	496
第233表	64-3号人骨と63号横穴墓被葬者のQ-相関係数	500
第234表	27号横穴墓被葬者と30号横穴墓被葬者間のQ-相関係数	503
第235表	上ノ原横穴墓群土器接合表	512
第236表	元和8年の人畜御改帳	515

41号横穴墓

1. 立地、調査前の状況

41号横穴墓は、北支群の東側に位置する斜面下位にあり、南西方向に開口する。開口部の標高は、約31mである。全長は、約4.35mを測り、主軸はN-56.5°-Eにとる。調査前の状況は、近年の造成によって天井部が、一部陥没していたが、横穴墓の存在を示す落ち込みなどは認められなかった。調査は前庭部プランの確認、同埋土の検討、閉塞施設の調査、上部のテラス状遺構の検出を行った。テラス状遺構は、民家の建設によって攪乱されており、確認できなかった。

2. 規模、構造

1) 前庭部、羨門部

a) 規模、構造 前庭部は長さ1.3m、幅は入口付近で0.25m、羨門付近で1.5mを測る。前庭部床面はゆるい凹凸があり、羨門に向かって約7~8°の傾斜で下降する。特に羨門部前面の1.9m付近で15cm程、0.5m付近で20cm程それぞれ段落ち羨道部に達する。側壁の傾斜は、両壁とも約72°を測る。また羨門部壁の傾斜は約85°を測る。

羨門部は完全に残存しており、高さ0.65m・幅0.52mを測り、正面形態は隅丸方形を呈する。

閉塞施設は、最終埋葬時の様相で、板石と河原円礫を用い入念に構築されている。まず羨門の下部に初葬時の閉塞石6枚を置き、閉塞の基底部を整える。閉塞の配石は次の2工程に分けられる。第1工程は、大形の安山岩製板石1枚と中形の安山岩製板石6枚を使用し羨門を覆う。第2工程は、人頭大の河原石および地山円礫20個前後で、1群を支え隙間を覆う。以上の配石によって面積・体積ともにおおよそ前庭部の3分の1程度が埋る。この配石後に前庭部全体を覆うように埋土がなされる。

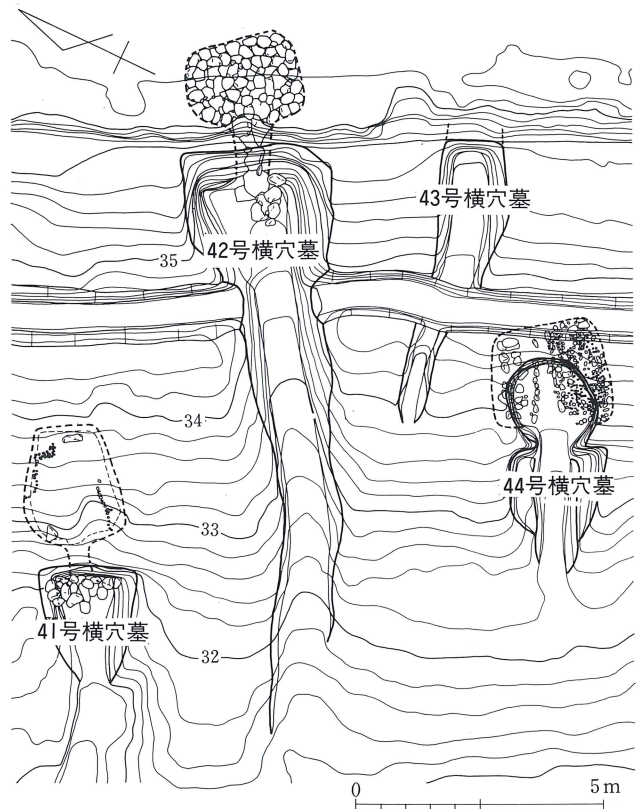
b) 前庭部内埋土 前庭部内の堆積土はその性状から、比較的明瞭な層区分が可能であり、全体で4層群9層に分層できた。以下堆積順に説明する。

第1層群（Ⅶ層）は前庭部中央約1mの範囲に、厚い所でほぼ10cm程レンズ状に堆積した基盤層の2次堆積土である。本層群は、初葬時の埋土と考えられるが、遺物を少量含む。第2層群によって殆どがカットされている。

第2層群（Ⅵ層）は羨門下面より前庭部全体に厚い所で40cm程レンズ状に堆積する。性状は、基盤層の2次堆積である。墓道先端で旧表土をカットし、上面は第4層群によって削平されている。遺物を包含している。本層群は第1次追葬時の埋土と考えられる。

第3層群（Ⅴ層）は羨門下面より50cm程の範囲に厚い所で20cmレンズ状に堆積する。性状は、基盤層の2次堆積であるが若干風化が進んでいる。本層群は第2次追葬時の埋土と考えられる。

第4層群（Ⅰ~Ⅳ層）は羨門中程より2mの範囲に厚い所で80cm程度堆積している。本層群はさらに4層に細分できる。上層より(1)クロボク質の風化土層であり本横穴墓使用後の旧表土と考えられる（Ⅰ層）。下層とは漸移的に変化する。(2)基盤層の2次堆積で風化が進んでいる（Ⅱ層）。(3)は(2)とほぼ同じであるが風



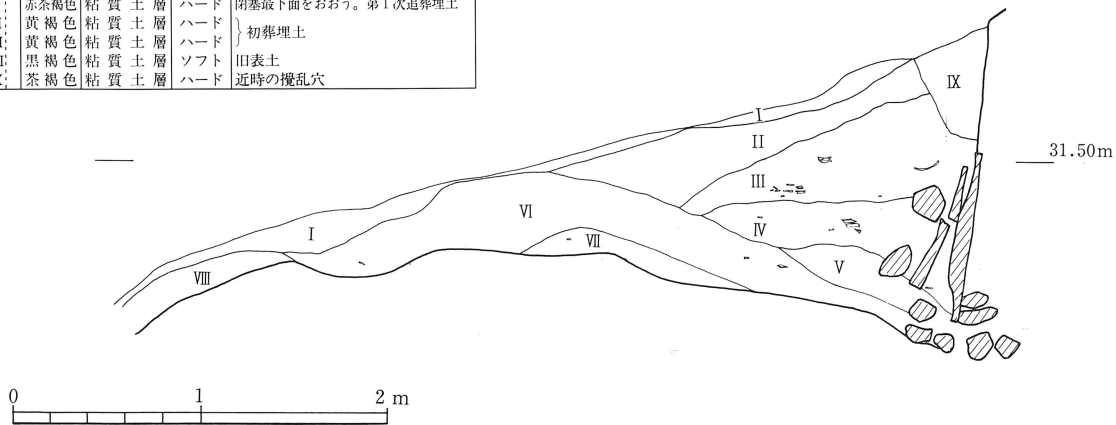
第237図 41号横穴墓周辺平面図



第238图 41号横穴墓平·断面图

41号横穴墓土層観察表

層	色調	主な特色	硬さ	評価・解釈
I:	黒褐色	粘質土層	ソフト	風化が進んでいる
II:	暗茶褐色	粘質土層	ハード	
III:	暗茶褐色	粘質土層	ハード	閉塞石の上面をおおう最終埋葬土
IV:	茶褐色	粘質土層	ハード	閉塞石の下面をおおう第2次追葬埋土
V:	赤茶褐色	粘質土層	ハード	閉塞最下面をおおう。第1次追葬埋土
VI:	黄褐色	粘質土層	ハード	} 初葬埋土
VII:	黄褐色	粘質土層	ハード	
VIII:	黒褐色	粘質土層	ソフト	旧表土
IX:	茶褐色	粘質土層	ハード	近時の攪乱穴



第239図 41号横穴墓縦断土層及び遺物垂直分布図

化が著しい。下層とは漸移的に変化する（Ⅲ層）。土師器・須恵器片を多量に含む。(4)は基盤層の2次堆積で風化は認められない（Ⅳ層）。土師器、須恵器片を含む。(3)・(4)層に遺物を包含している。本層群は第3次追葬時の埋土と考えられる。

以上の土層観察結果から本横穴墓では少なくとも4度の埋葬が行われたと推定される。

2) 羨道、玄室

羨道部は床面で、長さ0.75m、玄門幅0.4mを測る。床面はほぼ水平で玄室に向う。天井は床面にほぼ平行である。玄室は、長さ2.35m、裾部幅1.85m、奥壁幅1.22mで平入り隅丸台形を呈し床面には幅20cm、深さ10cmの排水溝が設けられている。天井は中央より玄門側は崩落しているが、アーチ状をなす。高さは中央付近で0.85mを測り、玄室と羨道との境は段を設けている。床面には5cm前後の埋土を全面に行い、その後、両側壁に接して礫床を設けている。左右の礫床ともに直径5cm以下の小円礫を主体に敷きつめている。右側礫床は長さ約1.6m、幅0.4~0.6mを測り、左側の礫床は長さ約1.0m、幅約0.3mを測る。右側礫床奥壁よりと左側礫床裾壁より長さ40cm、幅30cmの河原円礫を利用した石枕を設けている。床面は標高30.5mである。

3. 遺物の出土状態

1) 玄室内

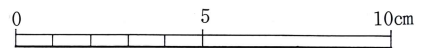
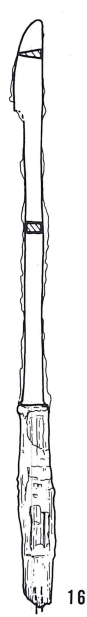
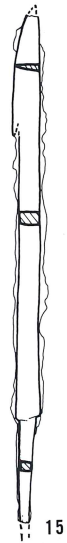
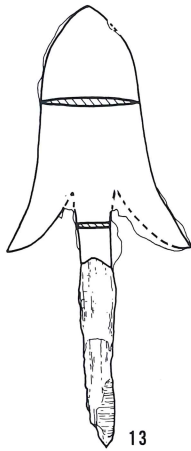
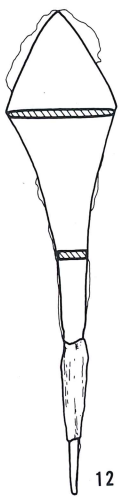
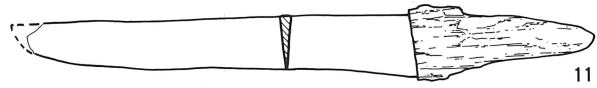
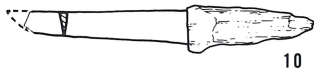
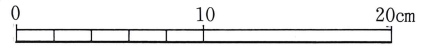
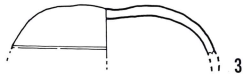
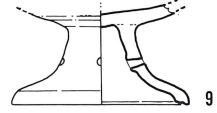
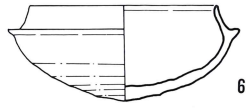
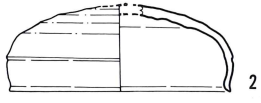
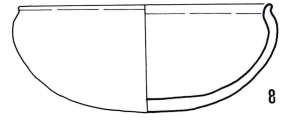
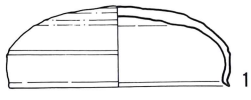
a) 埋葬人骨 少なくとも4体の人骨片が確認された。まず奥壁右コーナー付近において頭骸骨片および歯が検出された。また奥壁中央石枕下方において歯が散乱し、同左コーナー付近において上顎骨および歯と中央左側壁ぎわで下肢骨片がそれぞれ検出されたが、保存状態は悪く取り上げ不能であった。

b) 副葬品 玄室内には天井の若干の落盤土のほかは土砂はほとんどなく遺物も原位置をとどめていた。まず奥壁右コーナーの溝内に鉄鏃群（第240図17~19）が刃先を奥壁に向け出土し、その左横に刀子が1本（第240図11）刃先を中央に向け出土した。さらに中央よりに鉄鏃5本（第240図12~16）が刃先を奥壁に向けた状態でそれぞれ出土した。また左側壁の裾壁よりの溝内に刀子1本（第240図10）が刃先を奥壁に向けて出土した。なお左裾部の石枕上方で赤色顔料が10cmの範囲に認められた。

2) 前庭部内

前庭部の遺物の出土層位については埋土の項で示した。ここでは遺物の出土状況について述べる。

前庭部閉塞石付近において須恵器坏蓋、坏身、高坏、土師器埴（第240図1~9）が破片の状態で出土した。これは追葬時の攪乱によるものと考えられる。（村上久和）



第240图 41号横穴墓出土遗物实测图

第91表 41号横穴墓出土土器観察表

(単位：cm)

番号	器種	法量	形態の特色	技法の特色					備考	ヘラ記号の有無
		・口径 ・器高 ・胴部最大径		内面	外面	色調	胎土	焼成		
1	坏蓋	・11.8 ・4.3	口縁部は内湾しながらのび、端部はわずかに外反し内傾する面をなす。外面には沈線がみとめられる。天井部はやや高く丸みをおびる。	回転ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	青灰色	2～3mmの石英、長石粒を含む	良好		
2	坏蓋	・11.9 ・4.5	口縁部は内湾しながらのび、端部はわずかに外反し内傾する面をなす。外面には沈線がみとめられる。天井部はやや高く丸みをおびる。	回転ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	青灰色	石英粒を多量に含む	良好		
3	坏蓋	・— ・2.5+α	外面にはうすい稜がみられる。天井部は平らである。	回転ナデ	回転ナデ	灰色	精緻	良好 堅緻		
4	坏蓋	・6.5 ・2.5+α	口縁部は内湾しながらのび、端部はわずかに外反し、内傾する面をなす。外面にうすい稜がみとめられる。	回転ナデ	回転ナデ	灰黒色	精緻	良好 堅緻		
5	坏身	・— ・— ・—	たちあがりはほぼ直立してのび、端部は内傾するうすい段をなす。受部は水平で丸い。	回転ナデ	回転ナデ	灰色	石英、黒色砂粒を含む	良好 堅緻		
6	坏身	・10 ・5 ・12.4	たちあがりは内傾してのび、端部は内傾するうすい面をなす。受部は上外方にのび丸い。底部は深く丸みをおびる。	回転ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	明青灰色	1～2mmの石英粒を少量含む	良好 堅緻		
7	坏身	・10 ・4 ・12.3	たちあがりは内傾してのび、端部は丸く内面にうすい沈線がある。受部は細く水平にのび、端部はとがる。底部はやや深く平らである。	回転ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	青灰色	石英粒をやや多量に含む	良好 堅緻		
8	埴	・13.7 ・5.7 ・14.3	口縁部は内湾しながらのび、端部は細く外反し丸い。底部は深く丸みをおびる。	ナデ?	ヨコナデ?	淡橙色	石英粒をやや多量に含む	良好	土師器	
9	高坏	・9.51 ・5.2+α	脚部は下外方にのび、下に行くにつれてやや内湾する。端部はほぼ水平に近く内傾し凹面をなす。4方スカシ孔がある。	回転ナデ 調整ナデ	回転ヘラケズリ 回転ナデ	青灰色	石英、長石粒を含む	良好		

第92表 41号横穴墓出土鉄器観察表

(単位：cm)

番号	器種	全長	頭部長(刀部)	刃幅	頸幅	刃部厚	頸厚	備考
10	刀子	8.2以上	4.7	0.7	不明	0.2	不明	鹿角製柄残存
11	同上	15.4以上	10.5	1.6	不明	0.3	不明	木質残存
12	鉄鏃	12.7	6.3	2.8	0.9	0.25	0.3	
13	同上	11.6	6.4	3.5	0.9	1.3	0.15	桜樹皮巻残存
14	同上	15.8以上	4.0	0.8	0.5	0.3	0.4	
15	同上	15.2以上	4.0	0.8	0.5	0.2	0.35	
16	同上	15.8以上	2.8	0.8	0.5	0.2	0.3	桜樹皮巻残存
17	同上	17.2以上	3.5	0.8	0.5	0.3	0.4	
18	同上	18.6	2.7	0.75	0.45	0.2	0.3	
19	同上	17.8	3.3	0.75	0.5	0.25	0.45	

42号横穴墓

1. 立地、調査前の状況

42号横穴墓は北支群南よりの斜面下位に立地し、南西方向に開口する。全長は11.4mで、標高は墓道部の先端で32mを測る。玄室主軸方向は、N-43°-Eを測り、墓道主軸は西に曲っている。保存状態は、墓道上部の削平および中世の溝の横断はあるものの、おおむね良好であった。本横穴墓は斜面の遺構検出中に供献土器群が検出され発見の契機となった。調査以前には横穴墓の存在を示すような落ち込み等は認められなかった。調査は供献土器群の検出を進めつつ、墓道プランの確認、同埋土の検討、閉塞施設の調査を行った。閉塞施設の除去後、玄室内の崩落土等の除去作業を行い、遺物・礫床等の検出を実施した。

2. 規模、構造

1) 墓道、羨門部

a) 規模、構造 墓道は長さ8.6m、幅は墓道入口で1.15m、羨門付近で上部幅2.22m、底面幅1.75mを測る。墓道床面は凹凸を持ちながらも、約10°の緩やかな傾斜で羨門に向かって上がる。なお、墓道入口から約6m羨門方向へ寄った位置までは幅が狭く、その後羨門まで広がる逆台形状を呈すいわゆる前庭部を作る。この部分の両端には長さ0.9~1.2m、幅0.6~0.7m、高さ10cmの基壇を造り出し、中央には玄室からの排水溝が約1.2m程掘られている。排水溝には安山岩製板石を四個蓋石として使用している。側壁は羨門部の高さ2.1mで、70°前後の傾斜で立ち上がる。羨門壁は70°前後の傾斜を持ち、側壁とほぼ直角に接している。

羨門は天井が若干崩れているが、推定の羨門高は0.9m、幅は0.72mを測る。閉塞施設は最終埋葬時の状況であり、羨門全体を覆っていない。閉塞施設の構築方法は溝の蓋石を根石とし、上面に安山岩板石を3枚立てて羨門を覆っていたと考えられるが、追葬時に2枚の石を羨門方向に倒して使用した状況がうかがわれる。またこの板石の根石として9個の河原円礫が板石の下面に認められた。

b) 墓道内埋土 墓道内の堆積土はその性状から、比較的明瞭な層区分が可能であり全体で4層群22層に区分できた。以下堆積順に説明する。

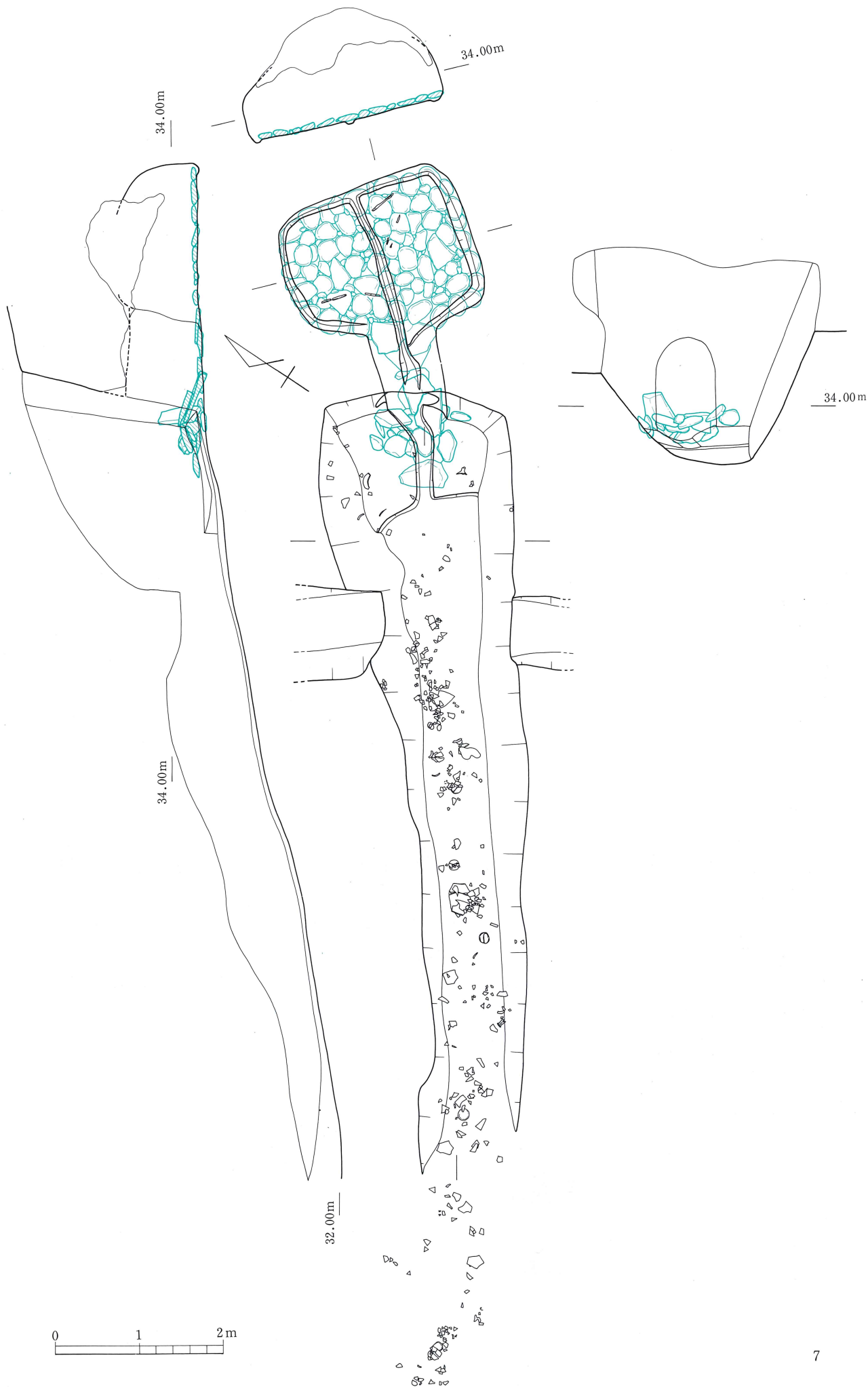
第1層群(XⅧ・XXⅠ・XXⅡ層)は羨門下面より墓道入口付近までもっとも厚い所で25cm前後水平に堆積し、上面を第2層群及び3層群によってカットされている。本層はさらに2層に区分される。(1)下層(XXⅠ・XXⅡ層)は基盤層の2次堆積土である。(2)上層(XⅧ層)は風化の進んだ基盤層の2次堆積土であり破砕散布状態の遺物を多く包含する。本層群は初葬時の埋土と考えられる。

第2層群(XⅢ・XⅤ・XⅥ・XⅦ層)は羨門から2m付近より墓道入口付近まで最も厚い所で30cm前後水平に堆積し、上面を3層群によってカットされている。本層はさらに2層に区分される。(1)下層(XⅤ・XⅥ・XⅦ層)は基盤層の二次堆積土で固く締まっている。上層とは漸移的变化をする。(2)下層(XⅢ層)は風化の進んだ層である。本層群は第1次追葬時の埋土と考えられる。

第3層群(Ⅷ・Ⅸ・Ⅹ・ⅩⅠ・ⅩⅣ層)は羨門から墓道入口付近まで最も厚い所で1.5m、最も薄い所で40cmと斜めに堆積している。本層はさらに3層に区分される。(1)下層(XⅣ層)は羨門から2mほど斜めに堆積した風化の著しい堆積土壌で羨門の閉塞土である。(2)中層(Ⅸ・Ⅹ・ⅩⅠ層)は羨門壁上部から墓道入口付近まで堆積した基盤層の2次堆積土であり、羨門に近いほど風化が進んでいる。本層上面で遺物の破砕散布が多く認められた。(3)上層(Ⅷ層)は(2)層の風化土層であり本層下面に遺物の破砕散布が多く認められた。本層群は最終埋葬時の埋土及びその風化土と考えられる。

第4層群(Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ層)は羨門から2mほどの所に50cm堆積した層で、中世の溝の埋土である。Ⅵ層は泥土であることから溝には水が溜まっていたと考えられる。

第5層群(Ⅰ・Ⅱ・Ⅶ層)は近年の造成埋土である。



第241图 42号横穴墓平·断面图

以上の土層観察結果から本横穴墓では少なくとも3回の埋葬が行われたと考えられる。

2) 羨道、玄室

羨道は長さ1.0m、玄門幅0.8mを測る。天井は中央部分が崩落しているが床面からの推定高は0.9m前後である。玄室は長さ1.77m、裾部幅2.0m、奥壁幅2.0mの平入り長方形を呈し、床面には幅10~15cm前後の排水溝が周壁および中央に設けられている。中央の溝は羨道まで延びている。床面はほぼ平坦であり、玄室には人頭大の川原石を、羨道には50cm大の板石をそれぞれ全面に敷き詰めている。玄室内の敷石の構築は中央の排水溝の上から左右に広げるように行い最後に5~10cmの小礫を円礫の隙間に補填している。なお、左側壁の奥壁より川原石を1個積み重ねて石枕としている。

天井は崩落が激しいがドーム形を呈すと推定され、床面からの高さは中央付近で1m前後と推定される。羨道とは段で境界を設けている。また、壁面には構築時の工具痕が明瞭に残っている。

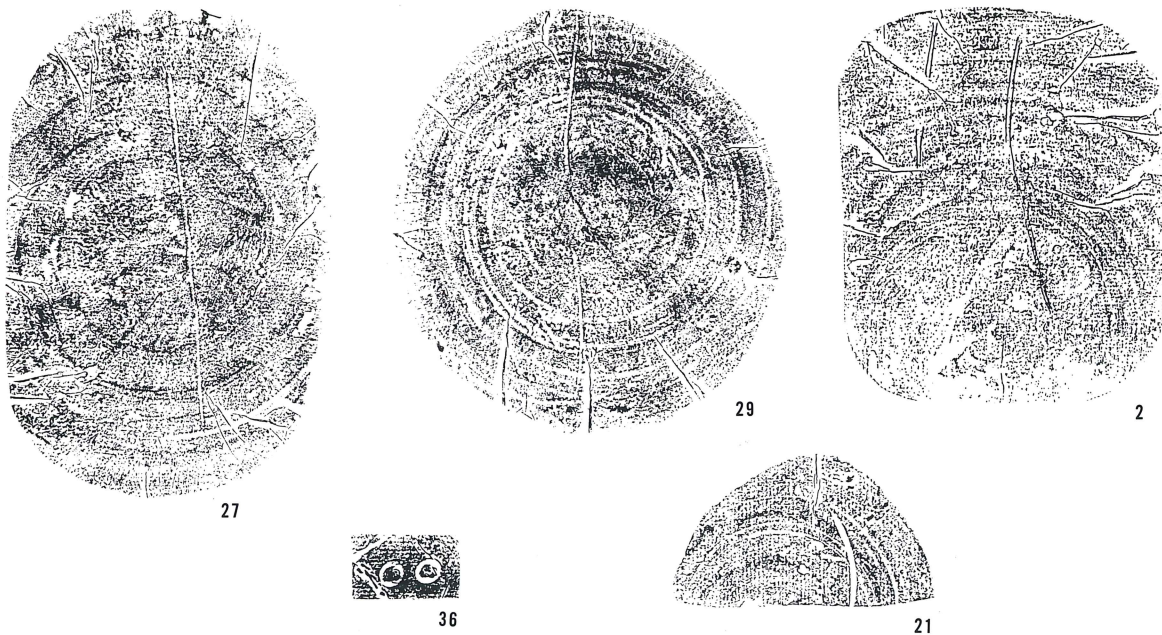
3. 遺物の出土状態

1) 玄室内

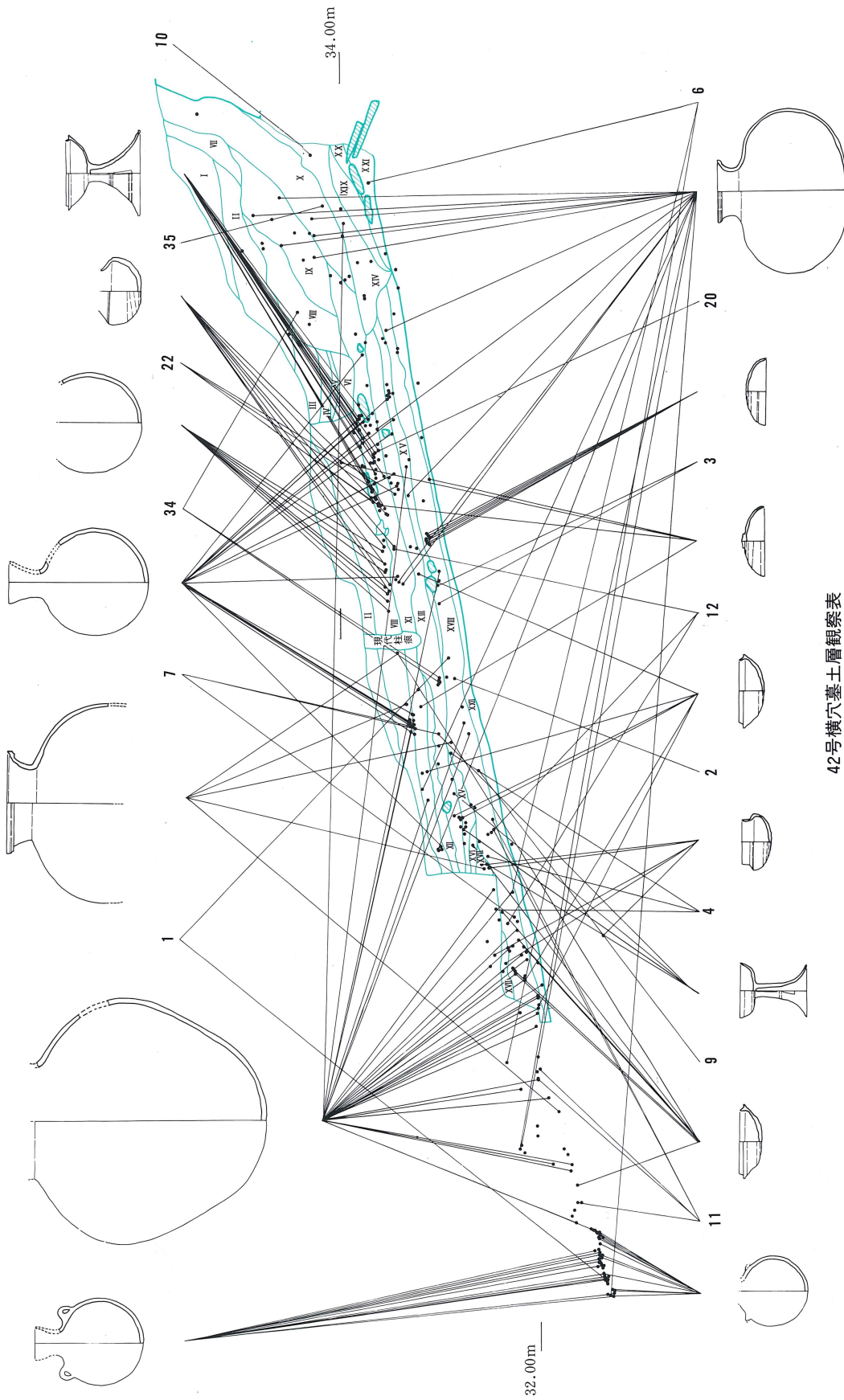
玄室内には天井部の崩落土がかなり認められたが、清掃後に人骨片、鉄器類が検出された。人骨は中央奥壁ぎわに大腿骨片が、左側壁の裾壁ぎわに大腿骨片および頸骨片が検出されたがいずれも腐植が激しく取り上げ不能であった。鉄器は左裾壁と側壁のコーナーで鉄鏃が、中央の奥壁よりで刀子、馬具、毛抜き形鉄器が、中央右側壁ぎわで鏝がそれぞれ検出された。

2) 墓道内

墓道内の遺物の出土層位については、墓道内埋土の項で示した。ここでは遺物の出土状況について述べる。本墓道より多量の土器が検出されたが、須恵器坏1点を除きすべて破片で検出された。分布範囲は羨門付近から墓道入口より2mほど離れた所までであるが、中央から入口付近に最も集中している。これらの破片は墓道全体で接合し、出土層位もⅧ~Ⅹ層の間で接合するところから、追葬時の墓道埋土の再利用によって遺物が破碎された状況を示していると考えられる。なお、墓道中央付近で轡等の馬具が一括出土した。(友岡信彦)



第242図 42号横穴墓出土土器へラ記号

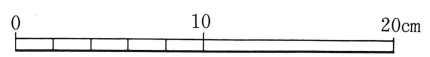
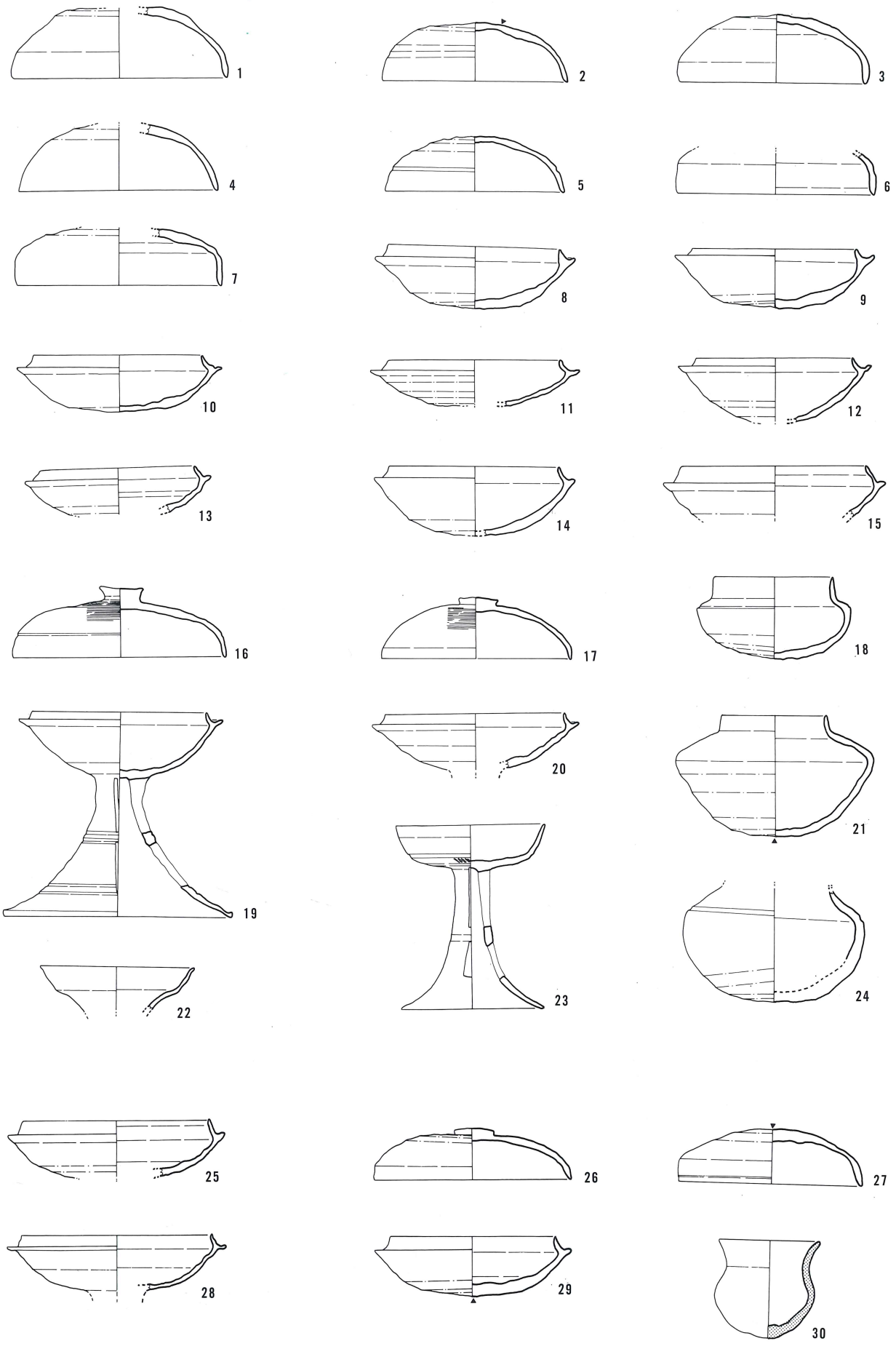


42号横穴墓土層観察表

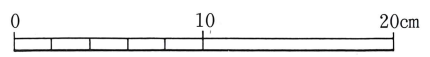
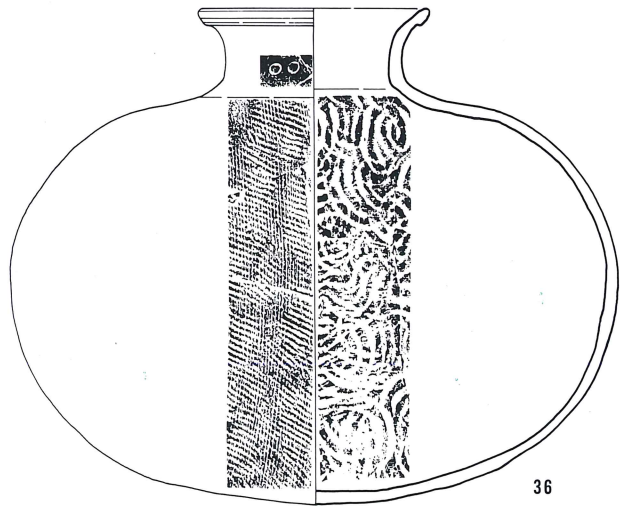
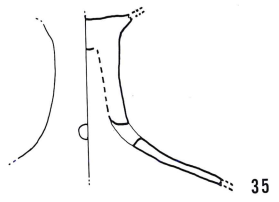
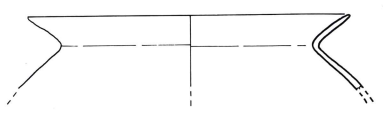
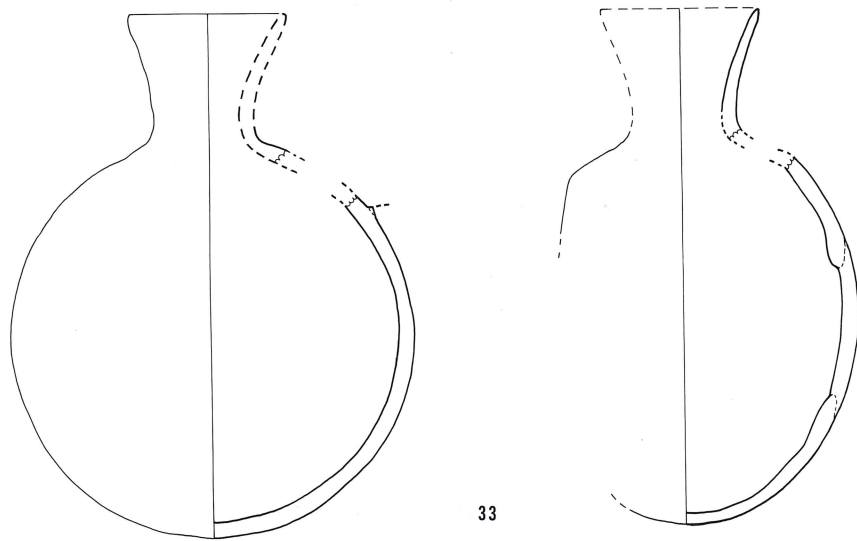
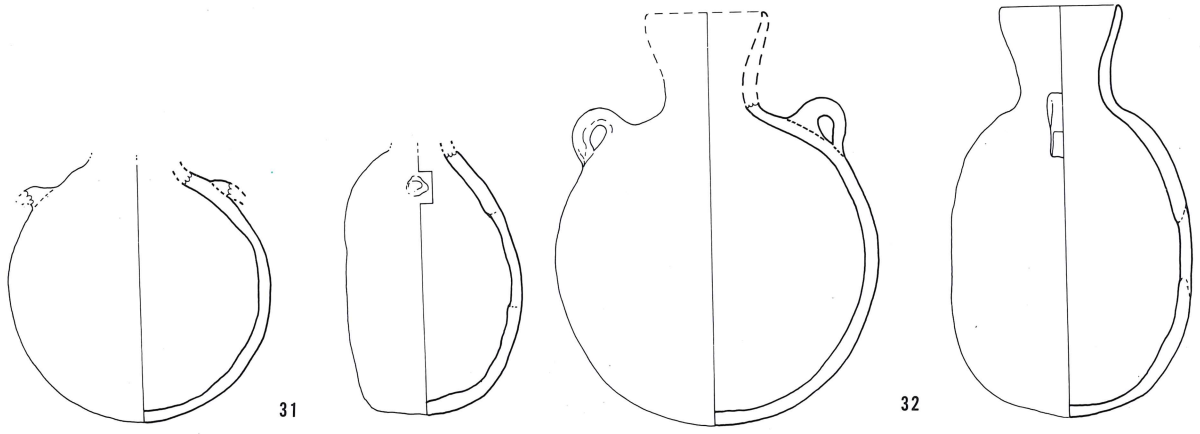
層	色調	主な特色	硬さ	評価・解釈	層	色調	主な特色	硬さ	評価・解釈
I	黄褐色		ベネド	2次堆積土	ⅩⅠ	黄褐色	粘質土	ハード	第1次埋葬土
II	赤褐色		ハード		ⅩⅡ	黄褐色	"	ややソフト	
III	黄褐色	粘質土層	ソフト	1号薄堆積土	ⅩⅢ	黒褐色	クロボク質土	ソフト	}
IV	黄灰色	粘質土層	ハード		ⅩⅣ	黄褐色	粘質土層	ハード	
V	灰褐色	粘質土層	ハード	2次堆積土、旧表土 風化が著しい。	ⅩⅤ	黄褐色	"	ハード	}
VI	黄灰色	粘質土層	ベネド		ⅩⅥ	黄褐色	粘質土層	ハード	
VII	明赤褐色	クロボク質土	ソフト	最終埋葬土	ⅩⅦ	黄灰色	粘質土層	ハード	}
VIII	赤褐色	粘質土層	ベネド		ⅩⅧ	黒褐色	クロボク質土	ソフト	
IX	淡黒褐色	クロボク質土	ハード		ⅩⅨ	黄灰色	粘質土層	ハード	}
X	黄褐色	粘質土層	ハード		ⅩⅩ	明黄褐色	"	ベネド	
XI					ⅩⅪ				初埋葬土



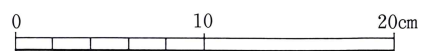
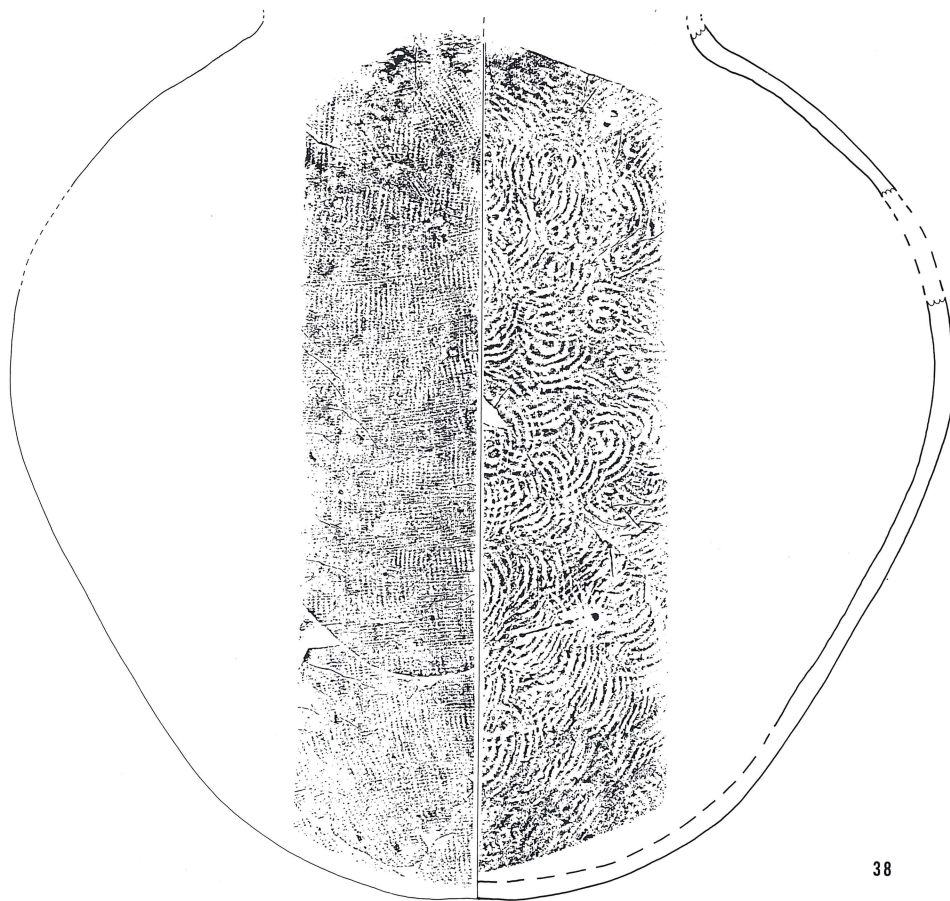
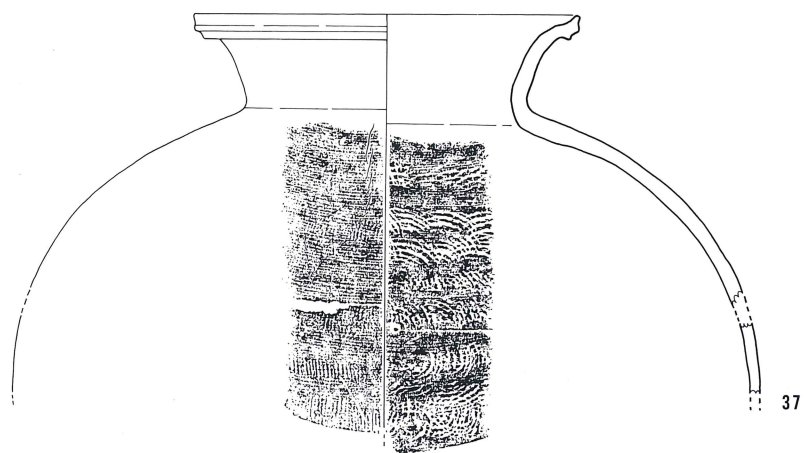
第243図 42号横穴墓縦断土層及び遺物垂直分布図



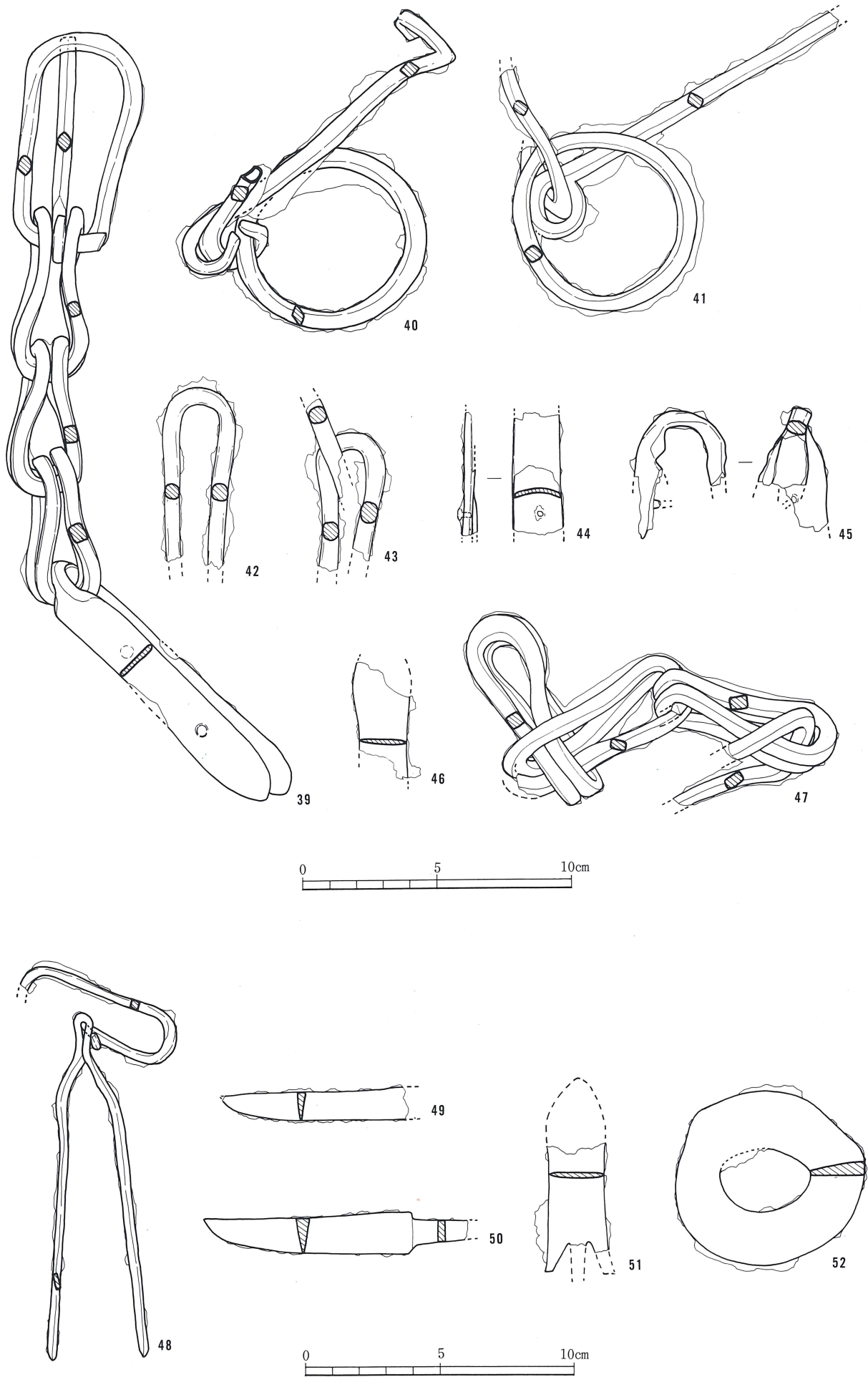
第244图 42号横穴墓出土遺物実測図(1)



第245图 42号横穴墓出土遺物実測図(2)



第246图 42号横穴墓出土遺物実測図(3)



第247图 42号横穴墓出土遗物实测图(4)

第93表 42号横穴墓出土土器観察表

(単位：cm)

番号	器種	法 量 ・口径 ・器高 ・胴部最大径	形 態 の 特 色	技 法 の 特 色					備 考	へラ記号の有無
				内 面	外 面	色 調	胎 土	焼 成		
1	坏蓋	・15.4 ・5.2+ α	口縁部は外反しながらのび、端部は丸い。天井部は高く丸みをおびる。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケ ズリ	淡青灰色	細砂粒を多量に含む	良好		
2	坏蓋	・13.5 ・4.3	口縁部は外反しながらのび、端部は丸い。天井部はやや高く丸みをおびる。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケ ズリ	淡灰色	角閃石その他の砂粒を少量含む	不良		外面天井部「II」
3	坏蓋	・13.6 ・5	口縁部は外反しながらのび、端部は丸い。天井部は高く丸みをおびる。	回転ナデ 回転ヘラケ ズリ	回転ナデ 回転ヘラケ ズリ	灰白色	精緻	やや不良		
4	坏蓋	・14.5 ・4.5	口縁部は、外反しながらのび、端部は丸い。天井部は高く丸みをおびる。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケ ズリ	青灰色	0.5mm～1.5mmの白色砂粒を少量含む	良好		
5	坏蓋	・13 ・4	口縁部は外反しながらのび、端部は丸い。外面は稜がみられる。天井部はやや高く丸みをおびる。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケ ズリ	青灰色	0.5mm前後の砂粒を少量含む	良好		
6	坏蓋	・14.2 ・3.1+ α	口縁部はほぼ直下にのび、端部は丸く内側にやや肥厚する。	回転ナデ	回転ナデ	灰色	細白色砂粒を多量に含む	良好		
7	坏蓋	・14.8 ・4+ α	口縁部はほぼ直下にのび、端部は丸い。天井部は低く平らである。	回転ナデ	回転ナデ 回転ヘラケ ズリ	灰白色	精緻	良好		
8	坏身	・12.4 ・— ・14.7	たちあがりはやや短く内傾してのび、端部は丸い。受部は外上方にのび、端部は丸い。底部は深く丸みをおびる。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケ ズリ	赤灰褐色 青灰色	0.5～1mmの白色砂粒を少量含む	良好		
9	坏身	・12.2 ・4.2 ・15	たちあがりは内傾してのび、端部は丸い。受部は外上方にのび、端部は丸い。底部は深く丸みをおびる。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケ ズリ	淡褐色 淡青灰色	0.5～1.5mmの白色砂粒を少量含む	良好		
10	坏身	・12.2 ・4.2 ・15	たちあがりは内傾してのび、端部は丸い。受部は肥厚しながら水平にのび、端部は丸い。底部は浅く平らである。	回転ナデ 回転ヘラケ ズリ	回転ナデ 回転ヘラケ ズリ	淡黄白色	細砂粒を含む	不良		
11	坏身	・12.4 ・3.5+ α ・15.1	たちあがりは内傾してのび、端部は丸い。受部は水平にのび、端部は丸い。底部は浅く平らである。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケ ズリ	黄灰色	細砂粒を多量に含む	良好		
12	坏身	・11.4 ・4.8+ α ・14	たちあがりは内傾してのび、端部は丸い。受部は外上方にのび、端部は丸い。	回転ナデ	回転ナデ 回転ヘラケ ズリ	灰色 淡灰紫色	細砂粒を含む	良好		
13	坏身	・11.3 ・3.3 ・13.7	たちあがりは内傾してのび、端部は丸い。受部は水平にのび、端部は丸い。	回転ナデ	回転ナデ 回転ヘラケ ズリ	暗青灰色	石英粒を含む	良好		

番号	器種	法量 ・口径 ・器高 ・胴部最大径	形態の特色	技法の特色					備考	へら記号の有無
				内面	外面	色調	胎土	焼成		
14	坏身	・12.3 ・5 ・14.6	たちあがりは内傾してのび、端部は丸い。受部は上外方にのび、端部は丸い。底部は深く丸い。	回転ナデ調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	淡赤褐色 青灰色	0.5mm前後の白色砂粒を少量含む	良好		
15	坏身	・13.4 ・3.7+ α ・16.2	たちあがりは内傾してのび、端部は丸い。受部は水平にのび、端部は丸い。	回転ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	灰白色	黒色細砂粒を含む	良好		
16	坏蓋	・15.6 ・5	口縁部は外反しながらのび、端部は丸い。天井部は低く平らである。外面頂部にツマミがつく。	回転ナデ調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ 後カキ目	青灰色	0.5～4mmの白色砂粒をやや多量に含む	良好		
17	坏蓋	・13.9 ・4.5	口縁部は外反しながらのび、端部は丸い。天井部はやや高く丸みをおびる。外面頂部にツマミがつく。	回転ナデ調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ 後カキ目	淡灰色	0.5～1.5mmの石英、角閃石粒を少量含む	良好		
18	罎	・8.6 ・6 ・11.3	口頸部はやや長く直立してのび、端部は丸い。底部はやや浅く丸みをおびる。	回転ナデ調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	青灰色 褐色	1～4mmの白色砂粒を含む	良好		
19	高坏	・12.8 ・14.8 ・14.9	坏部のたちあがりは内傾してのび、端部は丸い。受部は上外方にのび、端部は丸い。脚部は下外方にのび、端部はわずかに外反し面をなす。外面2ヶ所に2本のうすい沈線をなす部分がある。長方形2段スカシがある。	回転ナデ	回転ナデ	黄灰色	細砂粒を含む	不良		
20	高坏	・13.1 ・4+ α ・15.1	たちあがりは内傾してのび、端部は鋭い。受部は細く上外方にのび、端部は丸い。	回転ナデ	回転ナデ	灰色	白色砂粒を多量に含む	良好		
21	短頸壺	・7.6 ・8.8 ・14.5	口頸部は短く直立ぎみにのび、端部は丸い。胴部の最大径は上方にある。底部は深く丸みをおびる。	回転ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	淡青灰色	石英粒を含む	良好		外面底部「1」
22	臚	・11.3 ・3+ α	口縁部は外反しながらのび、端部付近でさらに外反し、端部は丸い。	回転ナデ波状文	回転ナデ	灰白色	白色砂粒を含む	良好		
23	高坏	・10.8 ・13.3	口縁部は外反しながらのび、端部は丸い。外面は稜がうすくみられる。坏部は浅い。脚部は下外方にのび、端部は丸い。長方形2段スカシがある。	回転ナデ調整ナデ	回転ナデ	青灰色	精緻	良好		
24	短頸壺	・— ・8.1 13.2	胴部は楕円形を呈し、最大径は中心部にある。底部はやや平らである。	回転ナデ調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	青灰色	0.5mm前後の白色砂粒を含む	良好		
25	坏身	・13.6 ・4.1+ α ・15.8	たちあがりは内傾してのび、端部は丸い。受部は水平にのび、端部は丸い。	回転ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	黄灰色	石英粒を含む	良好		

番号	器種	法量 ・口径 ・器高 ・胴部最大径	形態の特色	技法の特色					備考	へら記号の有無
				内面	外面	色調	胎土	焼成		
26	坏蓋	・14.4 ・3.7	口縁部は外反しながらのび、端部は丸い。天井部は低く平らである。外面頂部にツマミがつく。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケ ズリ	青灰色	0.5～1mm の白色砂粒 を少量含む	良好		
27	坏蓋	・13.4 ・4	口縁部は外反しながらのび、端部は丸く外面に1本の沈線がある。天井部はやや高く丸みをおびる。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケ ズリ	灰黒色 灰色	石英粒を多 量に含む	良好		外面天井 部「 」
28	高坏	・13.9 ・4+ α ・15.9	たちあがりは内傾してのび、端部は細く丸い。受部は水平にのび、端部は丸い。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ カキ目	青灰色	細砂粒を含 む	良好		
29	坏身	・12 ・4.3 ・14	口縁部は外反しながらのび、端部は丸い。受部は水平にのび、端部は丸い。底部は深く丸みをおびる。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケ ズリ	灰黒色	石英粒を多 量に含む	良好		外面底部 「 」
30	罎	・7.5 ・7.1 ・7.4	口縁部は外反しながらのび、端部は丸い。底部は深く丸みをおびる。	回転ナデ	回転ナデ ヘラ切り	灰黒色 灰色 青紫色	石英、角閃 石粒を含む	良好		
31	提瓶	・13.8 ・14+ α	胴部は楕円形を呈し、両肩に把手がついているが、欠損している。	回転ナデ	回転ナデ 回転カキ目	青灰色	白色砂粒を 含む	良好		
32	提瓶	・6.2 ・21.6 ・17.1	口頸部は外反しながらのび、端部はとがりきみで丸い。胴部は円形を呈し、両肩に環状把手がつく。	回転ナデ	回転ナデ 回転カキ目	青灰色	1mm前後の 白色粒を少 量含む	良好		
33	提瓶	・8.4 ・13.9	口頸部は外反しながらのび、端部は丸い。胴部は円形を呈し外面両肩に環状把手がついた痕跡がみとめられる。	回転ナデ	回転ナデ 回転カキ目	青灰色 灰色	1～3mmの 砂粒を少量 含む	良好		
34	壺	・17.1 ・3.6+ α	口頸部は「く」の字状に外反し、端部は丸い。	調整不明	調整不明	淡黄褐色	石英粒を多 量に含む	不良		
35	高坏	・— ・9.2+ α ・—	脚部は下外方にのび、下方に穿孔がある。	調整不明	調整不明	淡赤褐色	石英・角閃 石その他の 砂粒をやや 多量に含む	良好	土師器	
36	横瓶	・12.2 ・26.4 ・33.4	口縁部は外反しながらのび、端部は丸く肥厚し、外面に沈線と段をなす。胴部は楕円形を呈す。	回転ナデ 同心円タタ キ	回転ナデ 平行タタキ 回転カキ目	青灰色	精緻	良好		
37	甕	・24 ・20.2+ α ・20	口頸部は外反しながらのび、端部は段をなし丸く、外面に1本の突帯がつく。	回転ナデ 同心円タタ キ後横方向 に帯状にナ デ消し	回転ナデ	青灰色 灰色	1～1.5mm の白色砂粒 を少量含む	やや良 好		
38	甕	・— ・46.6 ・25	胴部の最大径は上方にあり、底部はとがりきみである。	同心円タタ キ後ナデ消 し	タタキ後 回転カキ目	青灰色 灰色	精緻	良好		

第94表 42号横穴墓出土鉄器観察表

(単位：cm)

番 号	器 種	全 長	頭部長 (刀部)	刃 幅	頸 幅	刃部厚	頸 厚	備 考
39	馬具							鎧組
40	同上							鏡板と引き手
41	同上							同上
42	同上							兵庫鎖
43	同上							同上
44	同上							U字形金具
45	同上							同上
46	同上							同上
47	同上							兵庫鎖
48	不明鉄器							鉗子
49	刀子	6.8以上	6.8以上	10.5	不明	0.2	不明	
50	同上	9.8以上	7.8	1.3	0.8	0.5	0.3	
51	鉄鏃	4.7以上	4.7以上	2.1	不明	0.2	不明	
52	鐔							

43号横穴墓

1. 立地、調査前の状況

43号横穴墓は、北支群南寄りの斜面に立地し、西方向に開口する。全長は約13.26m、標高は前庭部前面の上場で36.4m前後を測る。玄室主軸方向はN-56.5°-Eを測る。保存状態は必ずしも良好とはいえない。本横穴墓は斜面の遺構検出作業中に前庭部埋土の最上層風化土層が検出され、発見の契機となった。さらに前庭部中央を南北に県道が走り、県道東側側溝部分で玄室天井部が崩落した状態で確認された。昭和58年度は玄室部分と前庭部裾部分の調査を行い、改めて昭和60年度に県道迂回路を設け、旧県道下の前庭部及び閉塞施設の調査を行った。

2. 規模、構造

1) 墓道、羨門部

a) 規模、構造 墓道は長さ約10.3m、残存幅は墓道入口で約1.6mを測り、羨門部に向かって広がる平面形を呈している。しかし県道建設時に墓道上面はかなりの削平をうけている。羨門部と墓道の境から約1.2mまで左右に階段状の墓壇を2段持つ。左右の墓壇はそれぞれ中央部分に向かって約9°の傾斜で下降している。1段目の墓壇は左右ともほぼ0.6×0.5mの長方形を呈していて高さは0.3mを測る。2段目の墓壇は左が0.5×0.4m、右は0.3×0.4mで、高さは約0.2mを測る。左右の墓壇間は幅約0.4mで15~20°の傾斜で下降している。その中央には幅0.2mの排水溝が敷設されている。この排水溝は玄室から羨道部へと続き、さらに墓道へと延びている。墓壇から墓道入口にかけての床面は、3~10°の傾斜で下降している。側壁の傾斜は両者ともほぼ同様であり75°を測る。羨門部分は天井部分及び側壁部の削平のために旧状を大きく損なっている。このため高さは推定不能であるが、幅は0.56mを測る。

閉塞施設は削平及び側溝構築のため旧状を大きく損なっている。現状でみる限りは板石、河原円礫を使用している。板石は安山岩で扁平板石を使用している。板石は墓道から順に羨道部奥まで合計6枚敷かれている。これらは一連の行為であり、閉塞施設とはいえない部分もある。次に羨門部を覆う閉塞施設であるが、安山岩板石が1枚残存している。実際は数枚の板石があったと思われるが、側溝構築の際抜き取られたと推定している。河原円礫は羨門部を覆う安山岩板石の支えと隙間の補填のために使用したと考えられる状況で検出された。

b) 墓道内埋土 墓道内の堆積土壌は切り合い及び後世の攪乱等で、層区分が複雑な部分もあり困難を極めたが、全体で6層群15層に分層した。以下堆積順に説明を加えたい。

第1層群(XⅢ~XⅤ層)は、基盤層で構成されており、墓道全体に堆積する。羨門部付近は追葬時に整地されており、約5~25cm程度の層厚を測る。本層群はさらに2層に分層できる。下層(XⅤ層)は基盤層を利用した埋土であり、層厚は5~10cmを測る。上層(XⅢ~XⅣ層)は墓道全体に堆積していて、若干風化傾向が認められる。最大厚で約20cmを測るが、羨門部付近はカットされていてほとんど残存しない。本層群を初葬時の墓道内埋土と推定している。

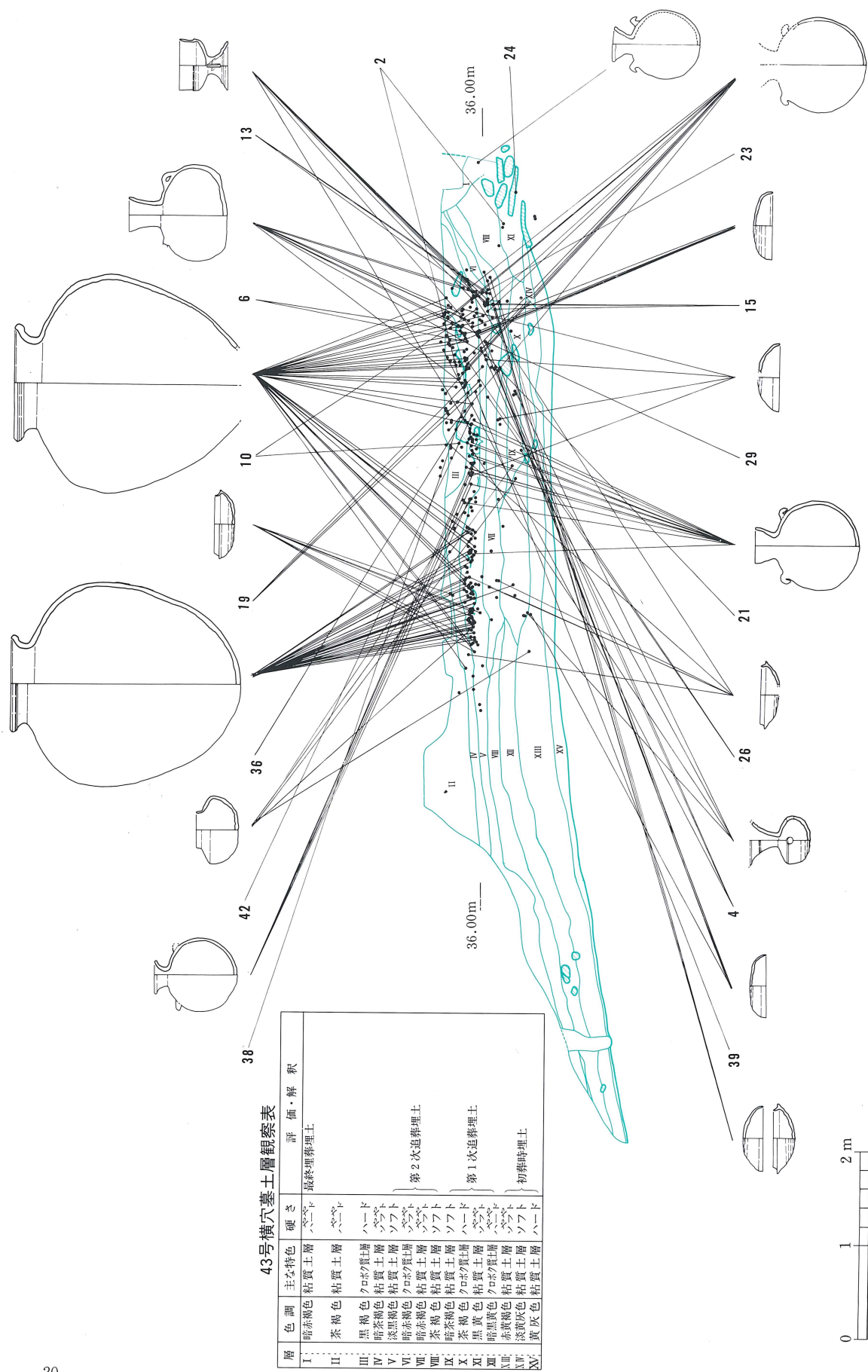
第2層群(Ⅸ~ⅩⅡ層)は、閉塞施設の下半分を覆い、墓道全体に堆積している。本層群はさらに、2層に分層できる。上面の層は風化現象がみられる。羨門部付近は次回の埋葬時に切り込まれている。墓道入口付近で土器の“一括埋置”の状況が認められた。本層群を第1次追葬時の墓道内埋土と推定している。

第3層群(Ⅵ~Ⅷ層)は、閉塞施設を覆い隠す様に堆積している。上面は風化がかなり進んでいる。羨門部から1.5m付近で“配列埋置”の状況が、2.5m付近で土器の“一括埋置”の状況がそれぞれ認められた。本層群を第2次追葬時の墓道内埋土と推定している。

第4層群(Ⅲ~Ⅴ層)は、墓道中央から入口にかけてレンズ状に堆積している。層厚は20cm前後で掘り込まれた状況で堆積している。この土層中から須恵器の“配列埋置”、“一括埋置”、“破碎散布”の状況が認められた。本層は土層観察の結果から、直接の埋葬行為には伴わない祭祀儀礼に供なう墓道内埋土と推定している。



第248图 43号横穴墓平·断面图



43号横穴墓土層観察表

層	色調	主な特色	硬さ	評価・解釈
I	暗赤褐色	粘質土層	ハード	最終埋葬土
II	茶褐色	粘質土層	ハード	
III	黒褐色	コロク質層	ソフト	第2次埋葬土
IV	暗茶褐色	粘質土層	ソフト	
V	淡黒褐色	粘質土層	ソフト	
VI	暗赤褐色	コロク質層	ソフト	
VII	暗赤褐色	粘質土層	ソフト	
VIII	茶褐色	粘質土層	ソフト	第1次埋葬土
IX	暗茶褐色	粘質土層	ハード	
X	黒黄色	コロク質層	ソフト	初葬時埋土
XI	暗黒黄色	粘質土層	ソフト	
XII	赤黄褐色	粘質土層	ソフト	
XIII	淡黄褐色	粘質土層	ハード	
XIV	黄灰色	粘質土層	ハード	
XV				

第249図 43号横穴墓縦断土層及び遺物垂直分布図

第5層群（Ⅰ層）は、墓道前面を約50°の傾斜角で羨門部へと切り込んでいる土層である。本層群を最終埋葬時の墓道内埋土と推定している。

第6層群（Ⅱ層）は、県道敷設の際に生じた二次堆積土或いは攪乱土であり、本横穴墓の墓道内埋土に直接関わるものではない。

本横穴墓は土層観察の結果、最低4度の埋葬行為と1度の埋葬に関わらない祭祀儀礼が行われたと推定される。

2) 羨道、玄室

羨道部は羨門で幅0.5m、玄門で幅0.65、長さ0.82mを測る。床面は安山岩板石3枚が敷かれており、敷石下面は約8°前後の緩い傾斜で玄室に向かって下降し、玄門部分で最深となる。天井部は削平されているため、高さ・傾斜の角度等は計測不能であった。羨門部は埋土及び二次堆積土で埋没している。

玄室は天井部の一部に崩落が認められるが、ドーム形を呈していたと推定される。高さは復元による推定であるが、1m前後であろう。長さは2.14m、幅2.45mで略方形を呈している。床面は全面に偏平な河原円礫を敷きつめているが、一部攪乱により排除されている。さらに円礫の隙間を直径10cm前後の小型円礫で補填している。敷石除去後の床面は標高35.5m前後で、奥壁に向かって若干の傾斜はあるもののほぼ平坦である。また幅20cm、深さ10cm前後の排水溝が周壁及び中央に設けられている。排水溝はさらに前庭部まで伸びている。

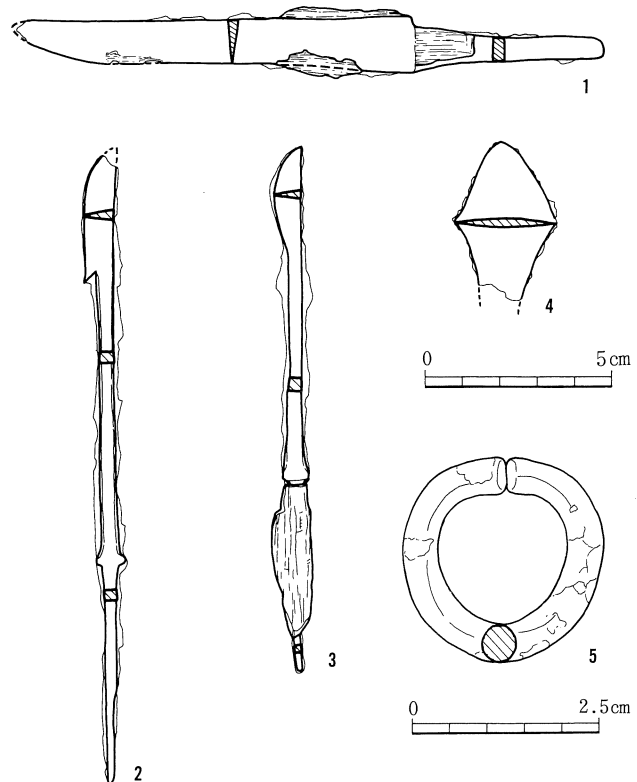
3. 遺物の出土状況

1) 玄室内

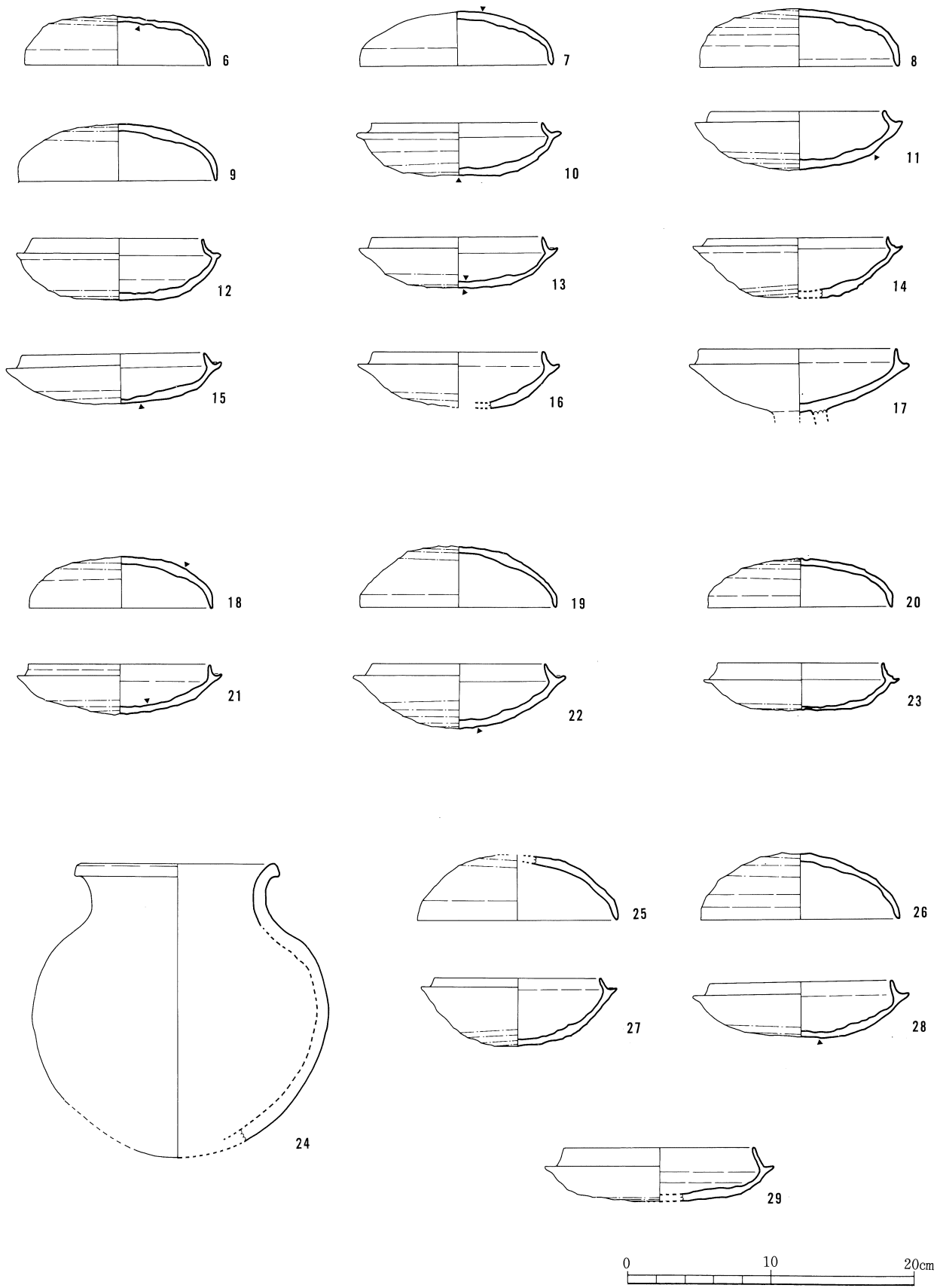
玄室内からは、鉄製品が検出された。鉄製品は鉄鎌が3本で、2本（第250図2・4）は右側壁中央付近の排水溝の中から先端を東に向けて検出された。1本（第250図3）は奥壁右隅の排水溝の中から先端を北東に向けて検出された。また、埋土中より耳環1点（第250図5）も検出された。

2) 墓道内

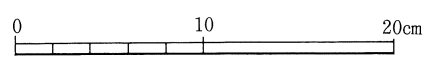
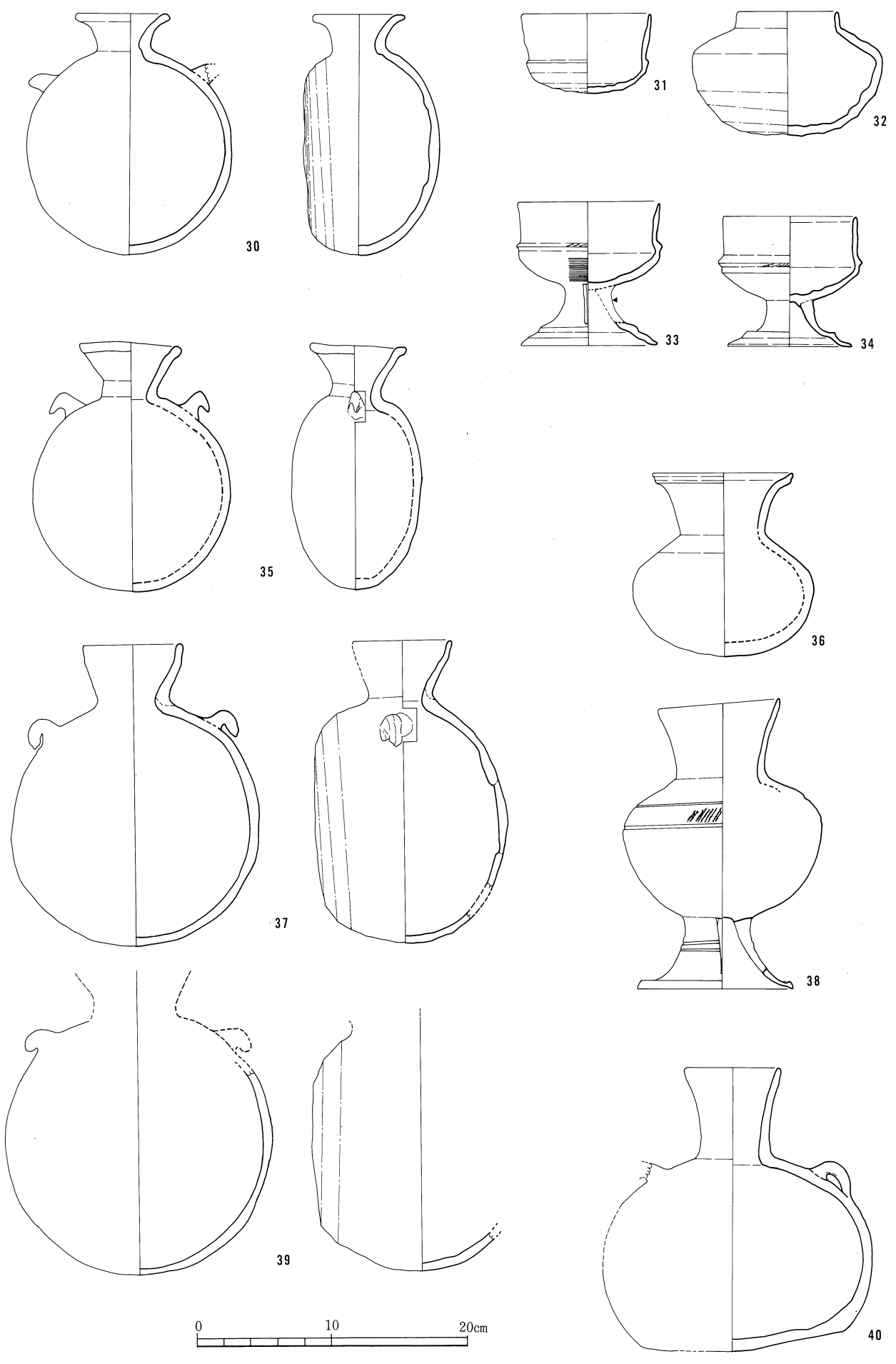
墓道内埋土からは、ほぼ全面にわたって遺物が検出されたが、なかでも4カ所で集中的に遺物の出土する地点がみられた。この4カ所をA～D群とし、土層観察と照らし合わせてみる。A群は第2層群の墓道入口付近に位置し、須恵器の壺・坏等（第251図24～29）が“一括埋置”の状態で見出された。B群は第2層群の墓道中央付近に位置し、ほぼ1.5mの範囲内で“一括埋置”の状態で見出された。検出した遺物は須恵器の甗・提瓶・大甕等（第252図30、35、37、第253図46、第254図50）である。この部分は下層を若干掘り込んでおり、遺物埋置後に埋土を行った痕跡がうかがえる。焼土・木炭等の検出は無かった。C群は羨門から1.5m程離れた位置の第4層群から検出された。標高は35.9m前後で須恵器の坏身・蓋のセット（第251図18～23）が“配列埋置”の状態で見出された。D群は、C群から1mほど西へ行った位置で須恵器の甗・提瓶・坏等（第251図6～11、第253図45）が“一括埋置”の状態で見出された。さらに、第4層群には大甕の破碎散布（第254図51）が認められた。（友岡信彦）



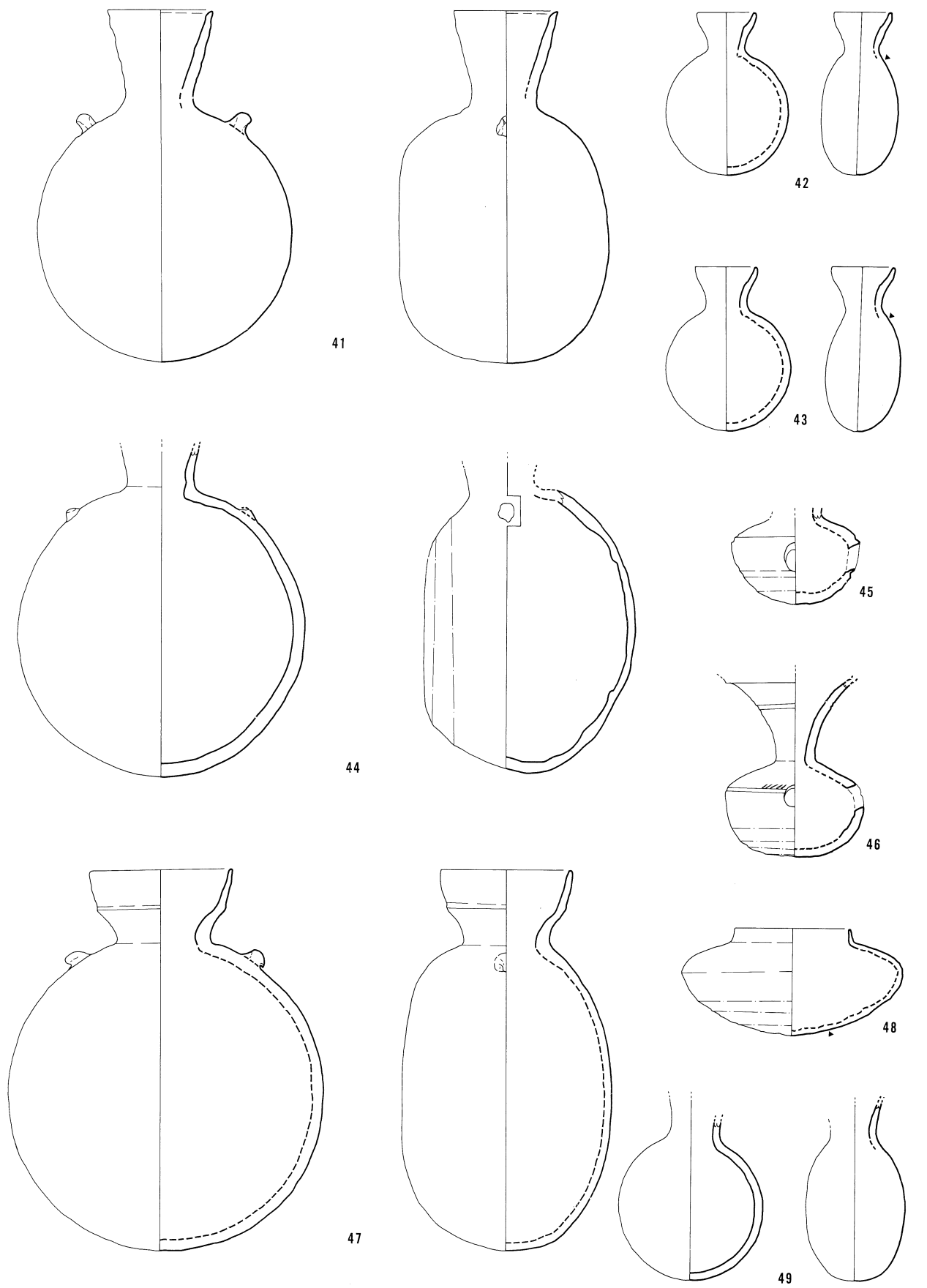
第250図 43号横穴墓出土遺物実測図(1)



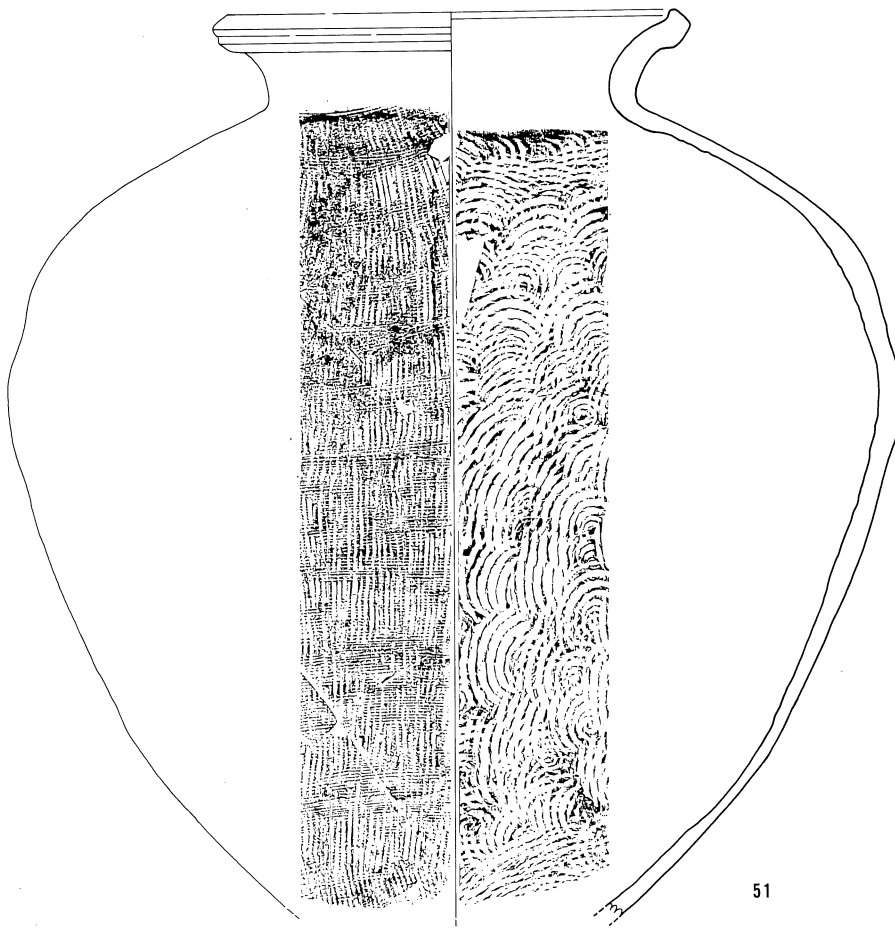
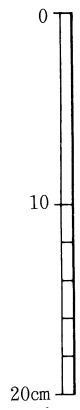
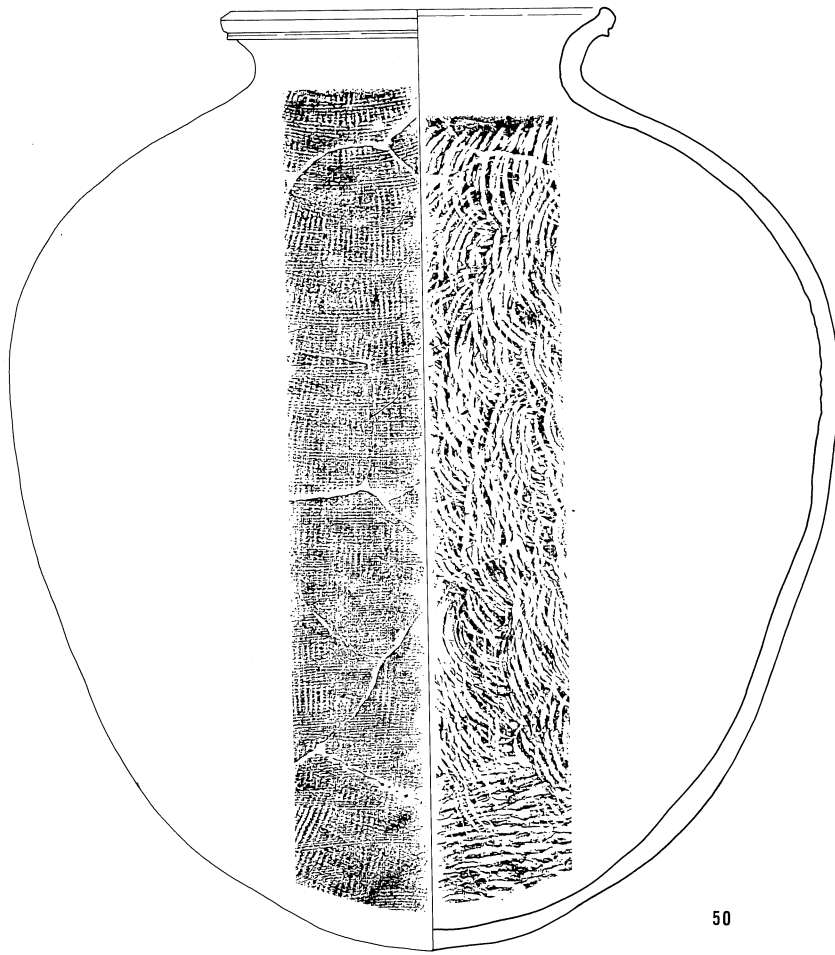
第251图 43号横穴墓出土遺物実測図(2)



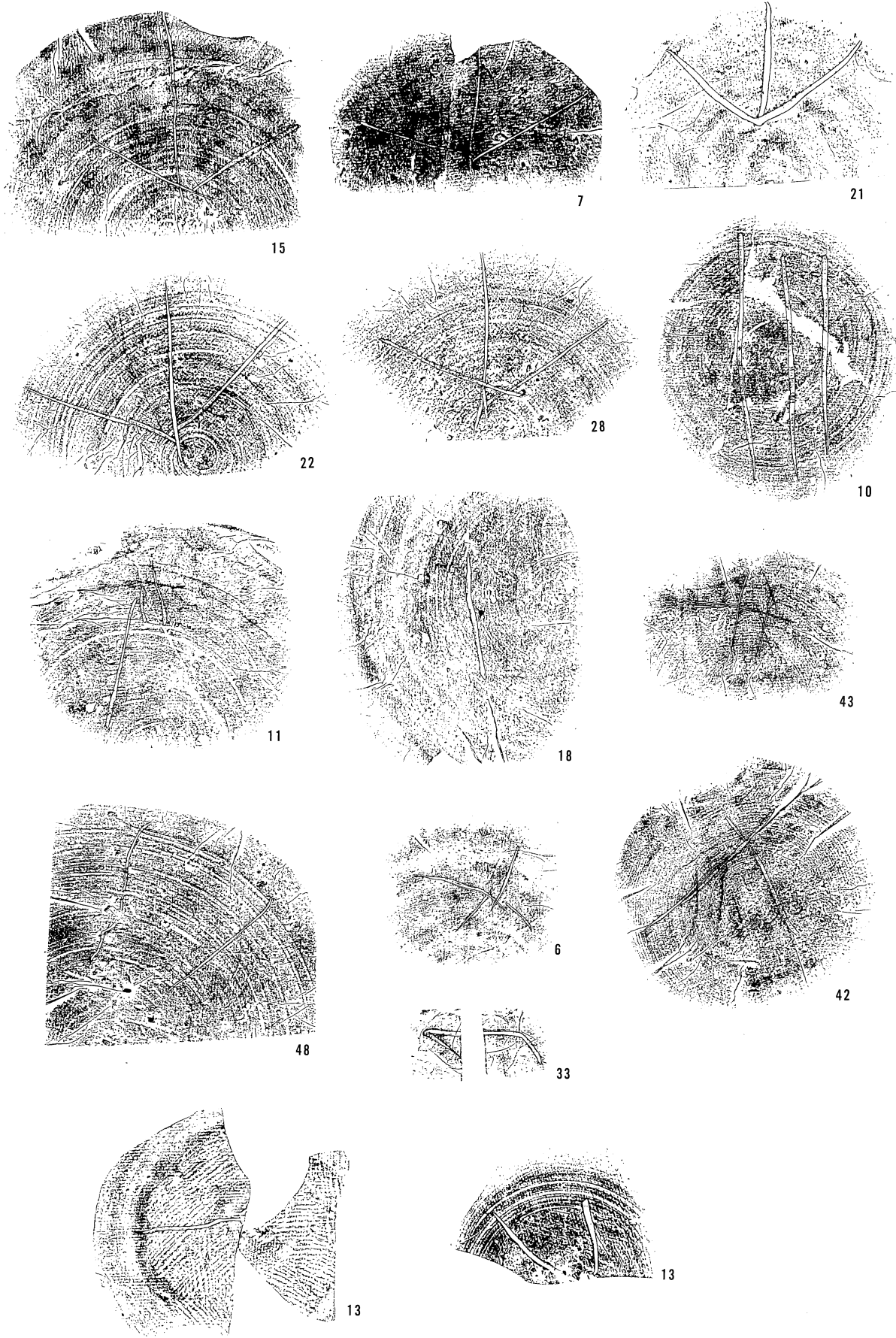
第252图 43号横穴墓出土遺物実測図(3)



0 10 20cm



第254图 43号横穴墓出土遺物実測図(5)



第255図 43号横穴墓出土土器へラ記号

第95表 43号横穴墓出土土器観察表

(単位：cm)

番号	器種	法量 ・口径 ・器高 ・胴部最大径	形態の特色	技法の特色					備考	ヘラ記号の有無
				内面	外面	色調	胎土	焼成		
6	坏蓋	・13.2 ・3.4	口縁部は外反しながらのび、端部は丸い。天井部は低く平らである。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	青灰色	1～1.5mmの白色砂粒を少量含む	良好		内面天井部「+」
7	坏蓋	・13.5 ・3.8	口縁部は直下にのび、端部は丸い。天井部はやや低く丸みをおびる。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 静止ヘラケズリ	青灰色	細砂粒を含む	良好		外面天井部「小」
8	坏蓋	・14 ・4.1	口縁部は外反しながらのび、端部は丸い。天井部はやや高く丸みをおびる。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	灰黒色	細砂粒を含む	良好		
9	坏蓋	・14 ・4	口縁部は外反しながらのび、端部は丸い。天井部はやや低く丸みをおびる。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	青灰色	0.5mm前後の白色砂粒を少量含む	良好		
10	坏身	・12 ・3.7 ・14.4	たちあがりは内傾してのび、端部は丸い。受部は水平にのび、端部は丸い。底部は浅く丸みをおびる。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	淡黄灰色 淡黒灰色	細砂粒を含む	良好		外面底部「Ⅲ」
11	坏身	・12.5 ・4.1 ・14.8	たちあがりは内傾してのび、端部は丸い。受部は肥厚しながら上外方にのび、端部は丸い。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	青灰色	1～2.5mmの石英粒をやや多量に含む	良好		外面底部「Ⅱ」
12	坏身	・12 ・4.3 ・14.4	たちあがりは内傾してのび、端部は丸い。受部は水平にのび、端部は丸い。底部は浅くやや平らである。	回転ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	黄灰色	石英粒を含む	良好		
13	坏身	・12 ・3.5 ・14	たちあがりは内傾してのび、端部は丸い。受部は上外方にのび、端部は丸い。底部は浅く丸みをおびる。	回転ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	灰白色 灰色	細砂粒を含む	良好		内面底部「I」 外面底部「U」
14	坏身	・12.8 ・4.2 ・14.8	たちあがりは内傾してのび、端部は丸い。受部は上外方にのび、端部は丸い。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	黄灰色 黒灰色 灰色	細石英粒を多量に含む	良好		
15	坏身	・12.8 ・3.6 ・15.1	たちあがりは内傾してのび、端部は丸い。受部は上外方にのび、端部は丸い。底部は浅く平らである。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	灰白色	黒色砂粒を含む	良好		外面底部「A」
16	坏身	・12.2 ・3.8 ・14.3	たちあがりは内傾してのび、端部は丸い。受部は上外方にのび、端部は丸い。底部はやや浅く丸みをおびる。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	青灰色	1mm前後の白色砂粒を含む	良好		
17	高坏	・14 ・4.8 ・15.6	たちあがりは直立ぎみにのび、端部は丸い。受部はほぼ水平にのび、端部は丸い。3方向からのスカシがある。	回転ナデ	回転ナデ	灰色	1～2mmの灰色砂粒を少量含む	良好		
18	坏蓋	・13 ・3.6	口縁部は外反しながらのび、端部は丸い。天井部はやや高く平らである。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	青灰色	0.5～1mmの白色砂粒を少量含む	良好		外面天井部「I」

番号	器種	法量 ・口径 ・器高 ・胴部最大径	形態の特色	技法の特色					備考	ヘラ記号の有無
				内面	外面	色調	胎土	焼成		
19	坏蓋	・14 ・4.3	口縁部は外反しながらほぼ直下にのび、端部は丸い。天井部はやや高く丸みをおびる。	回転ナデ調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	青灰色	1～1.5mmの白色砂粒を少量含む	良好		
20	坏蓋	・13 ・3.4	口縁部は外反しながら直下にのび、端部は丸い。天井部はやや低く平らである。	回転ナデ調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	灰色	細砂粒を含む	良好		
21	坏身	・12.7 ・3.4 ・14.4	たちあがりは短くほぼ直立してのび、端部は丸い。受部は細く上外方にのび、端部は丸い。底部はやや浅く平らである。	回転ナデ調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	灰色	白色砂粒を多量に含む	良好		内面底部「↑」
22	坏身	・12 ・4.6 ・15	たちあがりは内傾してのび、端部は丸い。受部は上外方にのび、端部は丸い。底部はやや深く丸みをおびる。	回転ナデ調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	黄灰色	石英粒を含む	良好		外面底部「↑」
23	坏身	・11.6 ・3.2 ・13.7	たちあがりは内傾してのび、端部は細く丸い。受部は上外方にのび、端部は丸い。底部は浅く平らである。	回転ナデ調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	青灰色	石英粒を含む	良好		
24	壺	・13.9 ・20.6 ・20.9	口頸部はわずかに外反しながらのび、端部はさらに屈曲し面をなす。底部は深く丸みをおびる。	回転ナデ 同心円タタキ	回転ナデ 回転カキ目	青灰色	石英、角閃石粒を含む	良好		
25	坏蓋	・14.2 ・4.5+α	口縁部は外反しながらのび、端部は丸い。天井部は高く丸みをおびる。	回転ナデ調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	青灰色	角閃石粒をやや多量に含む	良好		
26	坏蓋	・14 ・4.6	口縁部は外反しながらのび、端部は丸い。天井部は高く丸みをおびる。	回転ナデ調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	灰白色	黒色砂粒を含む	良好		
27	坏身	・11.6 ・4.8 ・13.8	たちあがりは内傾してのび、端部は丸い。受部は上外方にのび、端部は丸い。底部は深く丸みをおびる。	回転ナデ調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	黄灰色	細砂粒を多量に含む	良好		
28	坏身	・12.8 ・3.8 ・15.2	たちあがりは内傾してのび、端部は丸い。受部は上外方にのび、端部は丸い。底部は浅く平らである。	回転ナデ調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	黄灰色	白色砂粒 黒色砂粒を多量に含む	良好		外面底部「↑」
29	坏身	・13.4 ・3.8+α ・16	たちあがりは内傾してのび、端部は丸い。受部はほぼ水平にのび、端部は丸い。底部は浅く平らである。	回転ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	淡灰黄色	細砂粒を多量に含む	良好		
30	提瓶	・7 ・17.9 ・15.3	口頸部は外反しながらのび、端部は丸い。胴部は円形を呈し、両肩に角状の把手がつくが右側は欠損している。	回転ナデ	回転ナデ 回転カキ目	青灰色	2mm前後の石英粒を含む	良好		
31	埴	・9.6 ・5.8	口縁部はわずかに外反しながらのび、端部は丸い。外面にははつきりした稜がみとめられる。底部は深く丸みをおびる。	回転ナデ調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	青灰色	細砂粒を含む	良好		

番号	器種	法量 ・口径 ・器高 ・胴部最大径	形態の特色	技法の特色					備考	ヘラ記号の有無
				内面	外面	色調	胎土	焼成		
32	短頸壺	・7.5 ・9.2 ・4.2	口頸部は短く直立してのび、端部は丸い。胴部はだ円形を呈し、底部は平らである。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	黄灰色 黒灰色	石英、その他の砂粒を含む	良好		
33	脚付鉢	・10.6 ・10.6 ・10.8	口縁部は直立してのび、端部は丸い。外面ははっきりした稜がみられる。脚部は下外方にのび、さらに屈曲しながら外反し、端部は丸い。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転カキ目	灰白色	白色砂粒を含む	不良		外面脚部「Ⅶ」
34	脚付鉢	・9.9 ・9.7	口縁部は直立してのび、端部は丸い。外面は1本の突帯がつく。脚部は下外方にのび、端部付近でさらに屈曲し丸い。	回転ナデ	回転ナデ 回転カキ目	灰白色	細砂粒を含む	良好		
35	提瓶	・7.7 ・18.4 ・15	口頸部は外反しながらのび、端部は丸い。胴部は円形を呈し、外面両肩に角状の把手がつく。	回転ナデ	回転ナデ	灰白色 黒灰色	2～3mmの石英粒を含む	良好		
36	壺	・10.6 ・13.6 ・13.7	口頸部は外反しながらのび、端部は外面する凹面をなす。胴部はやや扁平で、底部はやや平らである。	回転ナデ	回転ナデ 回転カキ目	青灰色	1～4mmの白色砂粒をやや多量に含む	良好		
37	提瓶	・7.4 ・22.5 ・18.4	口頸部は外反しながらのび、端部は丸い。胴部は円形を呈し、両肩に角状の把手がつく。	回転ナデ	回転ナデ 回転カキ目	灰色	白色砂粒を含む	良好		
38	脚付壺	・9.1 ・21.2 ・14.9	口頸部は外反しながらのび、端部は丸い。胴部は外面に2本の沈線がある。脚部は短く下外方にのび、端部は面をなし外面に浅い2本の沈線がある。3方向から長方形スカシがある。	回転ナデ	回転ナデ 回転カキ目 楡描列点文	淡黄灰色	細砂粒を含む	不良		
39	提瓶	・— ・19+α ・19.9	脚部は円形を呈し、外面両方に角状の把手がつくが1方は欠損している。	回転ナデ	回転ナデ 回転カキ目	灰青色 灰白色	精緻	良好		
40	壺	・7.4 ・21 ・20.1	口頸部はやや長く外反しながらのび、端部は丸い。胴部は平らで両肩に把手がつく。底部は平らである。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転カキ目	青灰色	1mm前後の白色砂粒を少量含む	良好		
41	提瓶	・7.6 ・18.6 ・25.4	口頸部は外反しながらのび、端部は内傾する面をなす。胴部は円形を呈し、外面両肩に角状の把手がつく。	回転ナデ	回転ナデ 回転カキ目	灰青色 灰白色	1～2mmの細砂粒を含む	良好		
42	提瓶	・4.3 ・11.8 ・9	口頸部は外反しながらのび、端部は丸い。胴部は円形を呈す。	回転ナデ	回転ナデ 回転カキ目	青灰色 褐色	0.5～1mmの白色砂粒を含む	良好		外面肩部「Ⅹ」
43	提瓶	・4.4 ・11.8 ・9.2	口頸部は外反しながらのび、端部は丸い。胴部は円形を呈す。	回転ナデ	回転ナデ 回転カキ目	青灰色 褐色	0.5mm前後の砂粒を含む	良好		外面肩部「Ⅺ」

番号	器種	法量 ・口径 ・器高 ・胴部最大径	形態の特色	技法の特色					備考	ヘラ記号の有無
				内面	外面	色調	胎土	焼成		
44	提瓶	・ α ・23.5+ α ・21.2	口頸部は外反しながらのびる。胴部は円形を呈し、外面肩部に角状の把手が欠損した痕跡がある。	回転ナデ	回転ナデ 回転カキ目	黄褐色	細砂粒を含む	不良		
45	甕	・ α ・6.3+ α ・9.3	胴部は楕円形を呈し、外面上方に1本の沈線があり、中央部に穿孔がある。	回転ナデ	回転ナデ ヘラ切り後 回転ナデ 櫛描列点文	灰色	細砂粒を含む	良好		
46	甕	・ α ・13.2+ α ・10	口頸部は外反しながらのび、外面上方に2本の沈線がある。胴部は楕円形を呈し、外面上方に1本の沈線があり、やや上方に穿孔がある。	回転ナデ	回転ナデ 回転ヘラケ ズリ	青灰色	精緻	良好		
47	提瓶	・9.2 ・27.5 ・22.8	口縁部は外反しながらほぼ中央部で屈曲してのび、外面に稜をなし、端部は丸い。胴部は円形を呈し、外面両肩に角状の把手がつく。	回転ナデ	回転ナデ 回転カキ目	灰色	角閃石、その他の砂粒をやや多量に含む	良好		
48	短頸壺	・8.2 ・7.9	たちあがりは短く直立してのび、端部は丸い。胴部の最大径はやや中央部にある。底部はやや浅く丸い。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケ ズリ	灰色 灰褐色 黒灰色	1~2mmの細砂粒を含む	良好		外面底部「II」
49	提瓶	・ α ・12.9 ・10.5	口頸部は外反しながらのび、胴部は円形を呈す。	回転ナデ	回転ナデ 回転カキ目	青灰色	0.5~1mmの砂粒を含む	良好		
50	壺	・21 ・48.5 ・22.1	口頸部は外反しながらのび、端部は肥厚し、段をなし下方に沈線がある。胴部の最大径は上方にある。底部はとがりぎみで丸い。	回転ナデ 同心円タタキ	回転ナデ タタキ後 回転カキ目	青灰色 明青灰色	精緻	良好		
51	壺	・23.4 ・48+ α ・46.4	口頸部は外反しながらのび、端部は肥厚し内面に段をなす。胴部の最大径は上方にある。	回転ナデ 同心円タタキ	回転ナデ 回転カキ目 平行タタキ 後回転カキ目	青灰色	1~3mm大の石英粒を多量に含む	良好		

第96表 43号横穴墓出土鉄器観察表

(単位：cm)

番号	器種	全長	頭部長(刀部)	刃幅	頸幅	刃部厚	頸厚	備考
1	刀子	15.4	10.3	1.2	0.65	0.2	0.3	木質鞘柄の残存 墓道
2	鉄鏃	16.6以上	3.4以上	0.7	0.4	0.25	0.3	
3	同上	13.9	2.6	0.75	0.4	0.2	0.35	桜樹皮巻き残存
4	同上	4.2以上	4.2以上	2.8	不明	0.2	不明	

第97表 43号横穴墓出土土環計測表

(単位：mm, g)

番号	作り	外径	断面径	重量	備考
5	不明	27×27	5×5	3	もろい

44号横穴墓

1. 立地、調査前の状況

44号横穴墓は、北支群の東南側に位置し、斜面中位にあり、南西方向に開口する。開口部の標高は、約33m前後である。全長は約5.36mを測り、主軸はN-56.5°-Eにとる。調査前の状況は、近年の造成、民家の建設などによって玄室天井部が、陥没し横穴墓の存在を示す落ち込みが認められた。調査は前庭部プランの確認、同埋土の検討、閉塞施設の調査、上部のテラス状遺構の検出を行った。テラス状遺構は、民家の建設によって攪乱されており、確認できなかった。

2. 規模、構造

1) 前庭部、羨門部

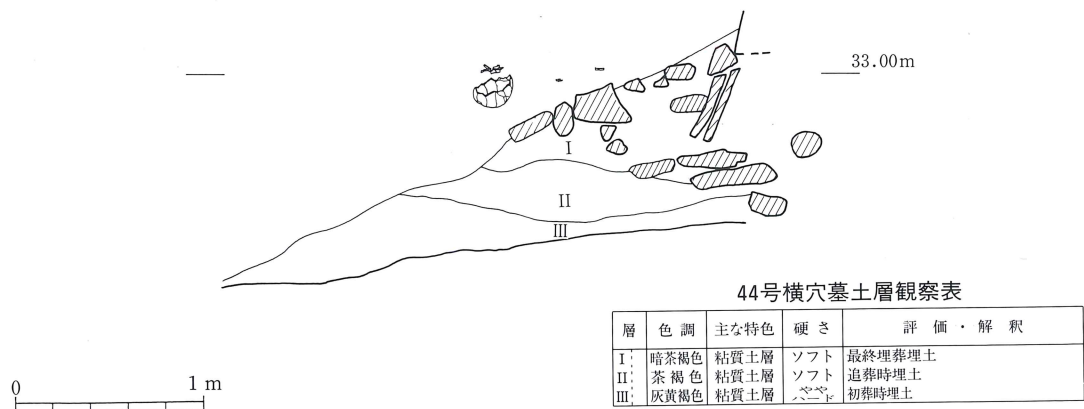
a) 規模、構造 前庭部は長さ2.91m、幅は入口付近で0.5m、羨門付近で0.55mを図る。前庭部床面はゆるい凹凸があり、羨門に向かって1~2°の傾斜で上る。側壁の傾斜は、両壁とも約70°を測るが、羨門付近に最大幅0.4m前後、長さ1.4~1.8mの逆三角形のテラスを造り出しており、前庭部床面とは0.4~0.5m程の段差がある。羨門部は完全に落盤しており、形状等不明である。

閉塞施設は、最終埋葬時の様相であり、板石と河原円礫を用い、入念に構築されている。まず羨門の下部に赤色顔料が下面に見られるところから初葬時の閉塞石と考えられる板石及び河原円礫を10個前後置き、閉塞の基底部を整える。ただし、その後の土圧等により3個は羨道内へ押されている。閉塞の配石は次の2工程に分けられる。第1工程は、内面に赤色顔料を塗布したやや大形の安山岩製板石1枚と中形の安山岩製板石2枚を使用し羨門を覆う。第2工程は、人頭大の河原石および地山円礫30~40個前後で、1群を支え、隙間を覆う。その際、やや大形の川原石を手前に置き支えとしている。以上の配石によって面積・体積ともにおおよそ前庭部の約半分程度が埋る。この配石の後に前庭部全体を覆うように埋土がなされる。

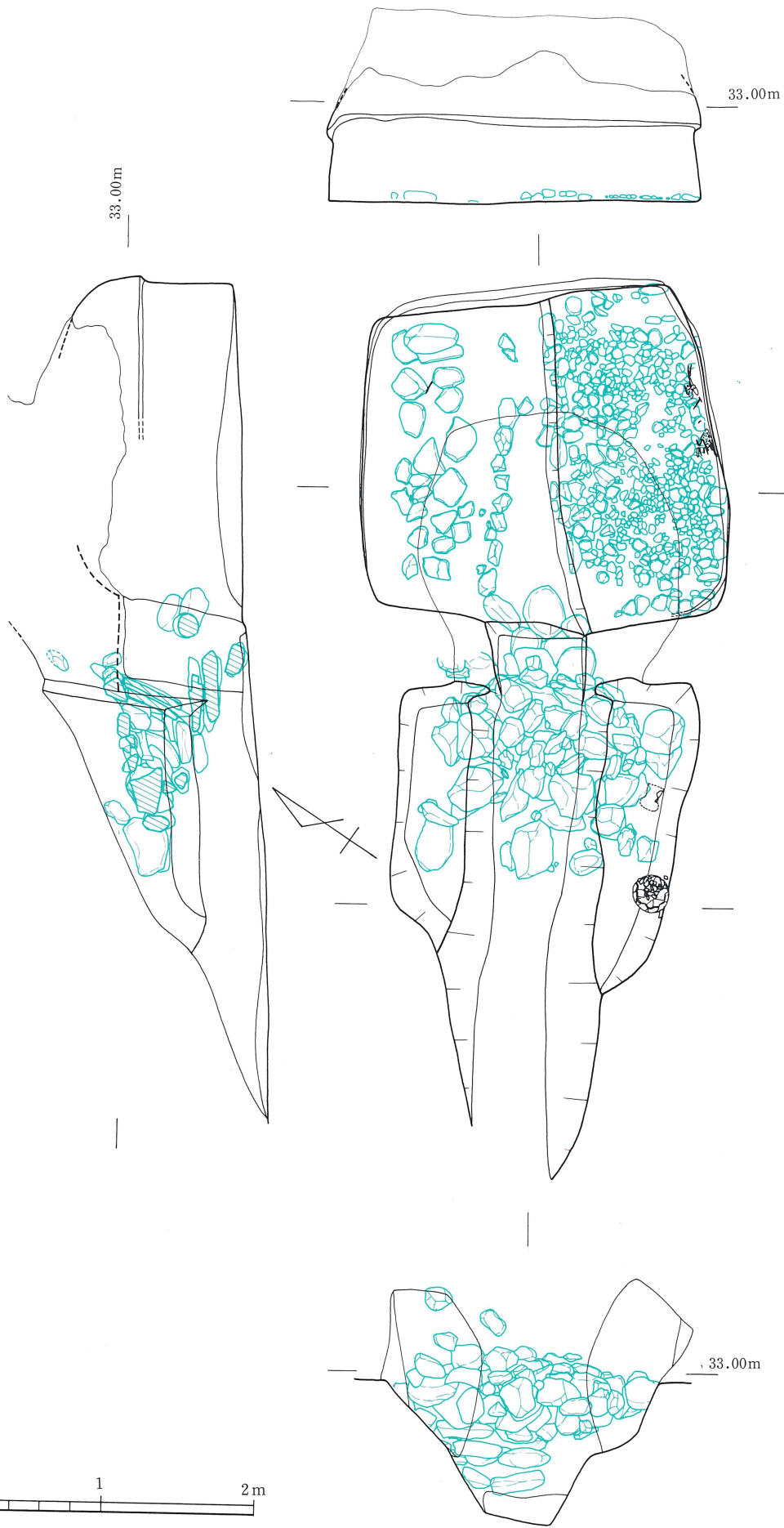
b) 前庭部内埋土 前庭部内の堆積土壌はその性状から、比較的明瞭な層区分が可能であり、全体で3層群に分層できた。以下堆積順に説明する。

第1層群(Ⅲ層)は前庭部入口付近から羨門付近の基底部石上面まで約3mの範囲に、厚い所で約40cm程レンズ状に堆積した基盤層の2次堆積土であり、羨門に近づくにつれ第2層群によって削平されている。下層群固く締っている。本層は初葬時の埋土と考えられる。

第2層群(Ⅱ層)は入口から約1m羨門寄りの所から羨門付近の閉塞右下面まで約2mの範囲に、厚い所で約35cm程レンズ状に堆積する。性状は、基盤層の2次堆積土であるが上面は風化が進んでいる。羨門に近づくにつれ第1層群によってカットされている。本層は第1次追葬時の埋土と考えられる。



第256図 44号横穴墓縦断土層及び遺物垂直分布図



第257图 44号横穴墓平·断面图

第3層群（I層）は入口から約1.5m羨門寄りの所から閉塞石全体を覆うように約1.5mの範囲に、厚い所で約80cm程三角形に堆積する。性状は、基盤層の2次堆積土であるが上面は若干風化が進んでいる。本層最上面で須恵器の壺が検出された。本層は最終埋葬時の埋土と考えられる。なお、前庭部の最上面に形成される風化の著しい層は、民家建設時の攪乱によって消失している。

以上の土層観察結果から本横穴墓では少なくとも3度の埋葬が行われたと推定される。

2) 羨道、玄室

羨道部は床面で長さ0.41m、玄門幅0.66mを測る。床面はほぼ水平に玄室に向い、玄室とは約15cm程の段を設けている。天井は、崩落し形状等不明である。玄室は長さ2.04m、最大幅2.38mの隅丸長方形を呈している。天井は中央付近が大きく崩落しており、高さは不明であるが、形態はドーム状を呈し側壁および奥壁と天井部との境に鴨居状の段をめぐらしている。床面には5cm前後の埋土を前面に行い、その後両側壁に接して礫床を設けている。奥壁に向かって右側礫床は長さ約2m、幅1～1.2mを測り、床面を約5～8cm程高くベッド状に造り出している。床面全体に直径5cm以下の川原小円礫を主体に一部人頭大の川原円礫を敷きつめている。奥壁と右側壁のコーナー際に長さ25cm、幅15cm前後の河原円礫を2個並べ石枕としている。

左側の礫床は長さ約1.6m、幅約0.7mを測り、床面には人頭大の河原円礫を並べている。奥壁と左側壁のコーナー際に長さ30cm、幅20cm前後の河原円礫を1個重ね石枕としている。

3. 遺物の出土状態

1) 玄室内

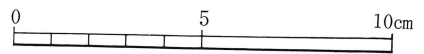
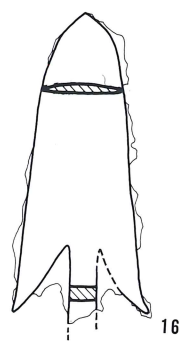
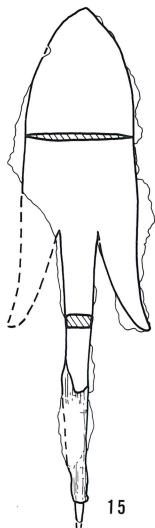
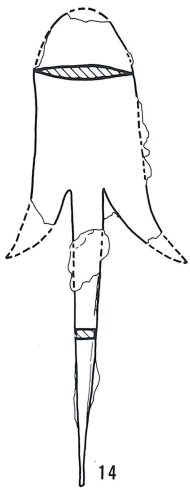
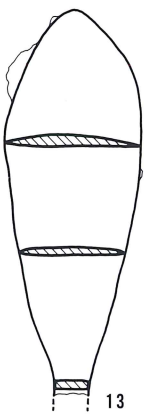
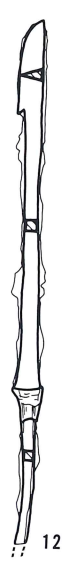
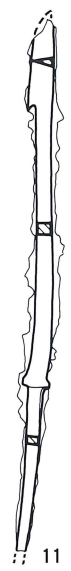
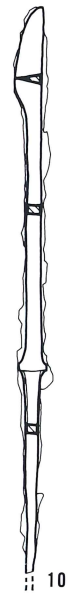
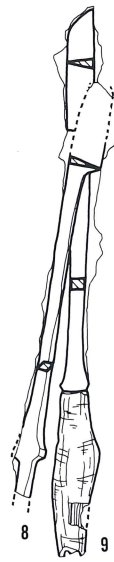
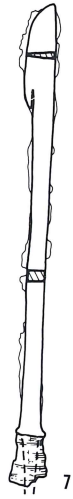
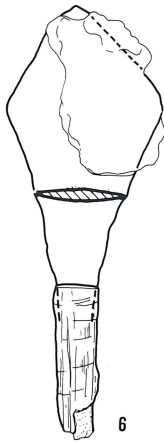
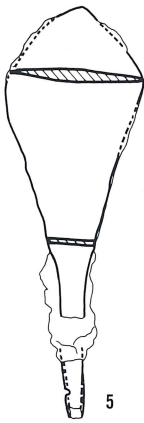
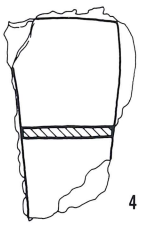
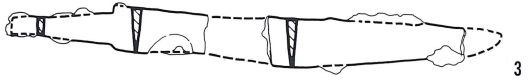
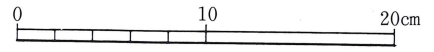
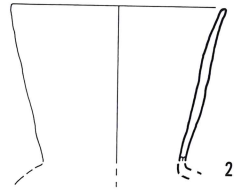
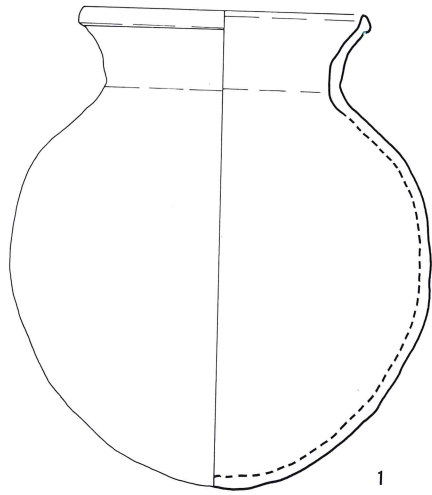
玄室内には天井部の崩落土がかなり見られたがほぼ原位置で遺物が検出された。まず、右礫床では右側壁際や奥壁寄りで刃先を羨道方向に向けた鉄鏃群（第258図4～6、13～15）およびこの群よりやや羨道寄りで刃先を羨道に向けた鉄鏃群（第258図7～12、16）を検出した。また左礫床では、中央奥壁寄りに刃先を羨道に向けた刀子1本（第258図3）を検出した。

2) 前庭部内

前庭部の遺物出土層位については埋土の項に示したので、ここでは出土状況について述べる。

前庭部ほぼ中央の右側テラス部分において横転した状態で土師器長頸壺（第258図2）が、これより約50cm程入口方向で正置した状態の須恵器小甕（第258図1）がそれぞれ検出された。いずれも出土層位から最終埋葬時のもので、特に小甕は最終閉塞埋土後に据え置かれたものである。

なお、土師器長頸壺は調査中に盗難に会い口縁部のみが残った。（村上久和）



第258图 44号横穴墓出土遺物実測図

第98表 44号横穴墓出土土器観察表

(単位：cm)

番号	器種	法量 ・口径 ・器高 ・胴部最大径	形態の特色	技法の特色					備考	ヘラ記号の有無
				内面	外面	色調	胎土	焼成		
1	甕	・14.9 ・25 ・22.4	口縁部は外反しながらのび、端部は面をなし丸い。胴部はほぼ円形を呈す。底部は丸みをおびる。	器面が磨減しているため調整不明	器面が磨減しているため調整不明	淡緑灰色	1～3mmの石英粒を含む	不良		
2	壺	・11.6 ・8.2+α	口縁部は外反しながらのび、端部は丸い。	ヨコナデ	器面が磨減しているため調整不明	明橙色	1～2mmの石英粒を少量含む	良好	土師器	

第99表 44号横穴墓出土鉄器観察表

(単位：cm)

番号	器種	全長	頭部長(刀部)	刃幅	頸幅	刃部厚	頸厚	備考
3	刀子	10.7以上	5.2以上	1.2	0.7	0.3	0.2	
4	鉄鏃	5.1以上	5.1以上	3.1	不明	不明	不明	
5	同上	11.0以上	7.0	3.6	不明	0.3	不明	
6	同上	11.5	7.4	3.6	不明	0.2	不明	桜樹皮巻残存
7	同上	13.7	2.8	0.8	0.5	0.2	0.3	同上
8	同上	11.0以上	2.5	0.8	0.4	不明	0.3	
9	同上	14.5以上	3.2	0.8	0.4	0.2	0.25	桜樹皮巻残存
10	同上	14.9以上	2.4	0.7	0.4	0.3	0.3	
11	同上	14.0以上	2.3	0.7	0.5	0.25	0.3	
12	同上	13.8以上	2.6	0.6	0.5	0.2	0.3	
13	同上	10.1以上	9.0	3.7	1.0	0.3	0.35	
14	同上	12.6以上	6.0以上	2.8	0.7	0.3	0.35	
15	同上	13.6以上	8.4	3.0	0.7	0.2	0.3	木質残存
16	同上	8.2以上	7.8	2.8	0.7	0.3	0.4	

45号横穴墓

1. 立地、調査前の状況

45号横穴墓は、北支群の南側斜面上方に位置し、ほぼ西方向に開口する。開口部の標高は、約34.5mで、全長は、10.47mを測る。墓道主軸はN-33°-Eにとり、玄室主軸は、墓道主軸に対して10°程北に屈曲する。調査前の状況は、近年の造成が墓道入口付近で認められたが、おおむね良好であった。調査は、墓道プランの確認、同埋土の検討、閉塞施設の調査を行った。閉塞施設の除去後、玄室内の崩落土等の除去作業を行い、遺物・礫床等の検出を実施した。

2. 規模、構造

1) 墓道、羨門部

a) 規模、構造 墓道部は長さ7.25m、幅は墓道入口で約0.65m、羨門付近で底面幅1.18mを測る。墓道床面は、わずかに凹凸を持ちながら約6~10°の傾斜で羨門に向かって上がる。墓道奥壁部は約70°の傾斜であり、側壁は80°の傾斜である。奥壁部の高さは現状で約1mを測る。

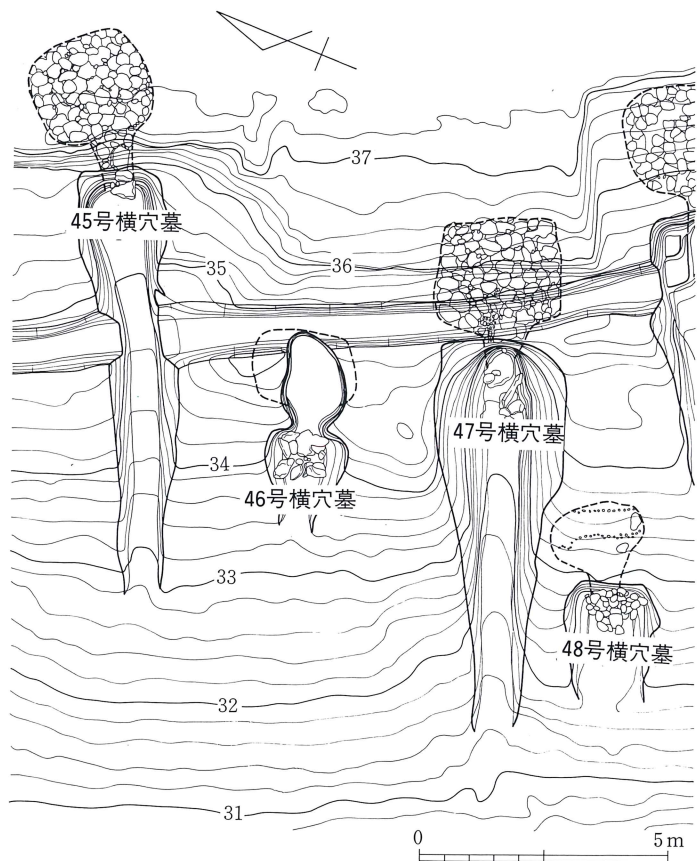
羨門入口部分は天井部の崩落が著しく保存状態は悪い。羨門は床面幅60cmで、高さは不明である。床面のほぼ中央に幅18cm、深さ5cmの玄室内から続く排水溝が造られている。なお、この排水溝は墓道部に向かって1.4m程続いている。

閉塞施設は、追葬時の状況で2次的に動かされており羨門下半のみを覆っている。人頭大の河原円礫3個と板石2個で構成されており、この礫群はⅨ層中に含まれる状況から、最終埋葬時の閉塞は木板等を使用したと考えられる。

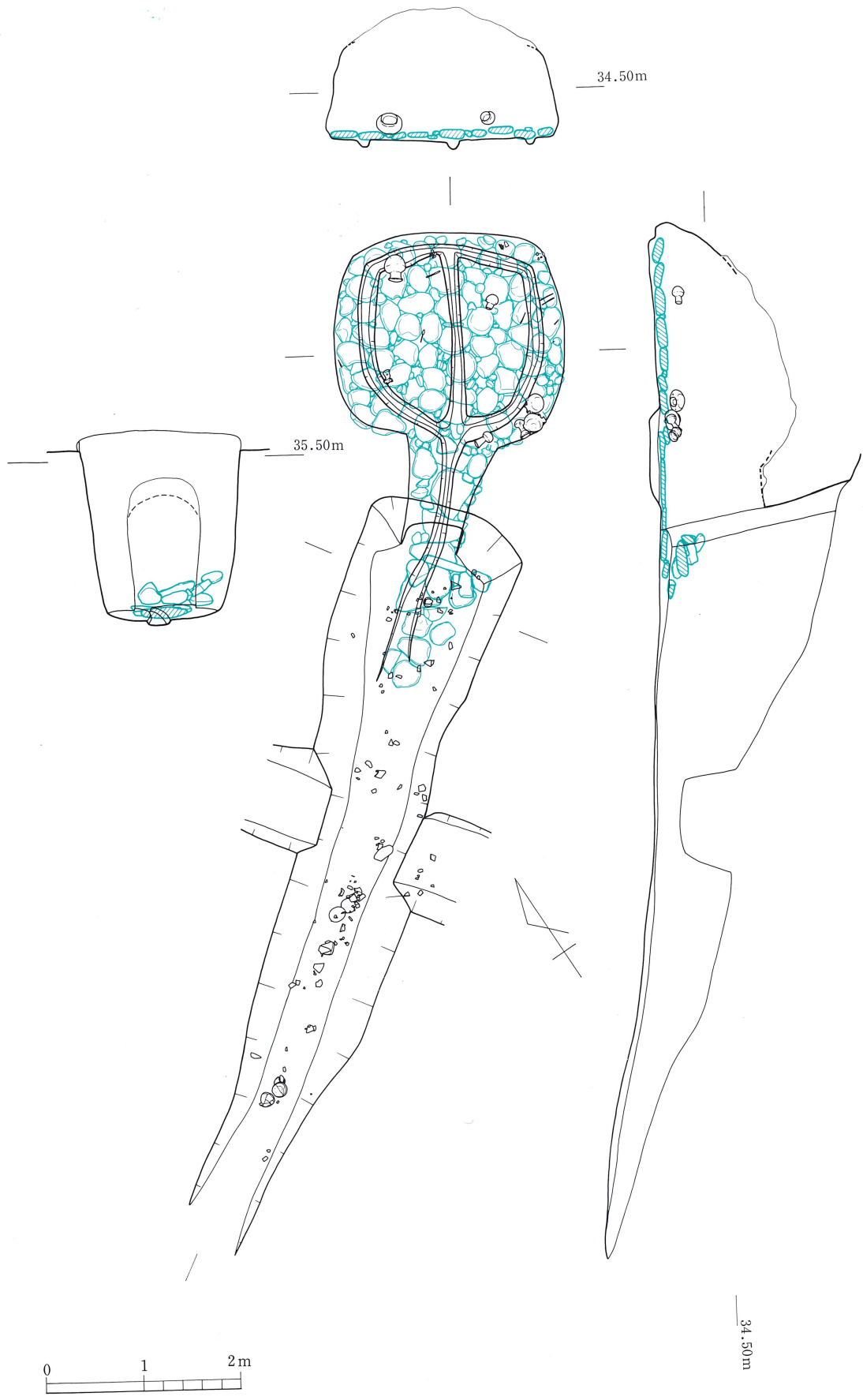
b) 墓道内埋土 墓道内の堆積土壌は4層群12層に区分された。

第1層群(X~XⅡ層)は墓道下半部の主要埋土であり、羨門より墓道方向へ約70cmの地点から墓道入口付近まで凸レンズ状に堆積している。最も厚い所で約20cmを測る。墓道中央付近から羨門方向は第2層群によって上面をカットされている。溝蓋石を包含する。本層はさらに2層に分離される。下層より(1)基盤層の2次堆積土で固く締まっている。上層とは漸移的に変化する。(XⅡ層)。(2)基盤層の2次堆積土であるが上面程風化が著しい。(X・XⅠ層)。本層群は初層時の墓道埋土と考えられる。なお、本層群中に帰属する明確な遺物は認められない。

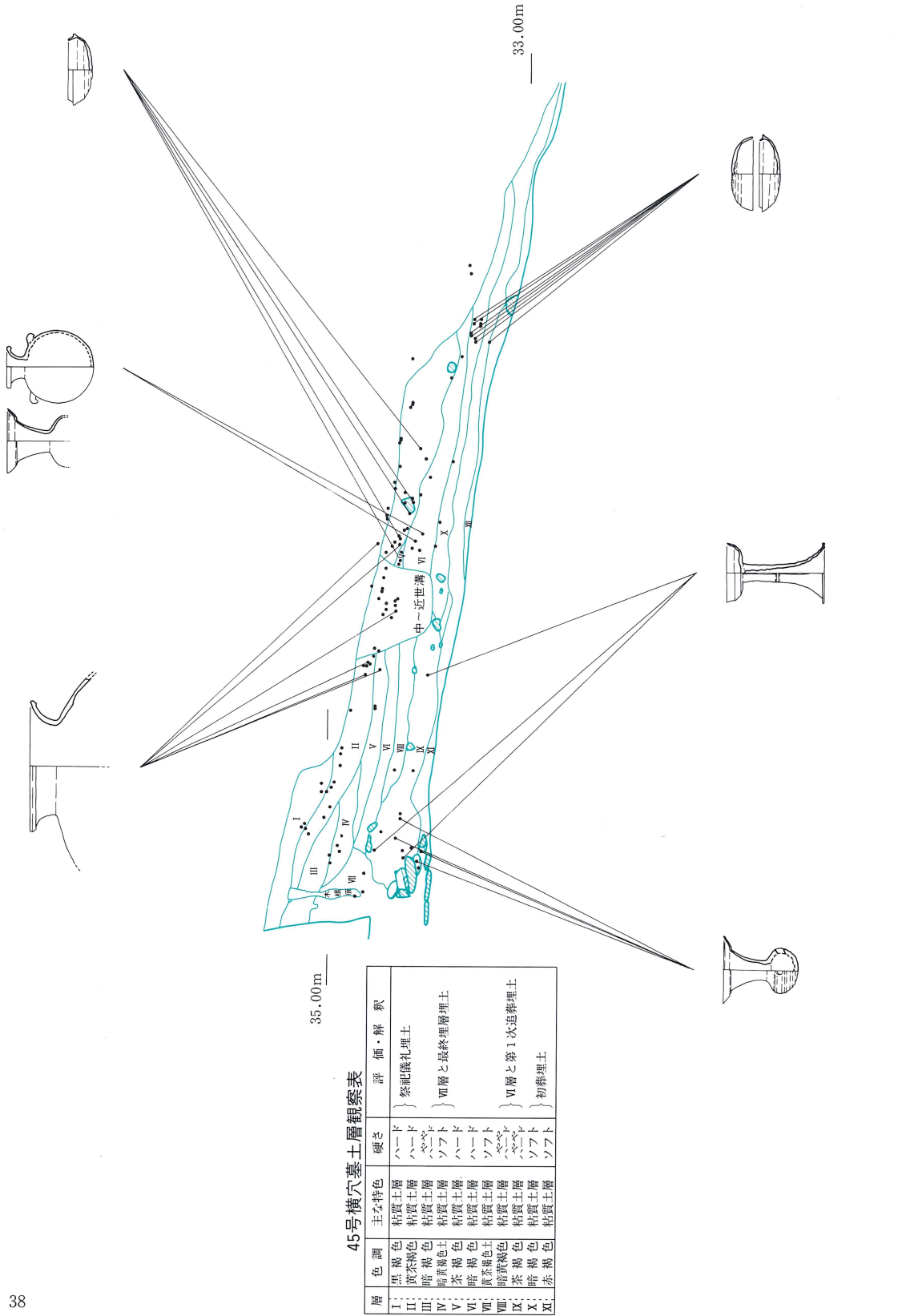
第2層群(Ⅵ・Ⅷ・Ⅸ層)は墓道上半部の主要埋土であり羨門付近より墓道入口付近までほぼ水平に堆積している。最も厚い所で約40cmを測る。墓道中央では1号溝に、羨門付近では第3層群によってそれぞれカットされている。閉塞石を包含する。本層群はさらに3層に分離される。下層より(1)基盤層の2次堆積土で固く締まっている。上層とは漸移的に変化する。層中に坏蓋身の一括埋置(第262図7~8)および高坏(第262図4)、甕(第



第259図 45号横穴墓周辺平面図



第260图 45号横穴墓平・断面图



45号横穴墓土層観察表

層	色調	主な特色	硬さ	評 価 ・ 解 釈
I:	黒褐色	粘質土層	ハード	} 祭祀儀礼埋土
II:	黄茶褐色	粘質土層	ハード	
III:	暗褐色	粘質土層	ソフト	} Ⅶ層と最終埋葬層埋土
IV:	暗黄褐色土	粘質土層	ソフト	
V:	茶褐色	粘質土層	ハード	} Ⅵ層と第1次追葬埋土
VI:	暗褐色	粘質土層	ソフト	
Ⅶ:	黄茶褐色土	粘質土層	ハード	} 初葬埋土
Ⅷ:	暗黄褐色	粘質土層	ソフト	
IX:	暗褐色	粘質土層	ソフト	
X:	暗褐色	粘質土層	ソフト	
XI:	赤褐色	粘質土層	ソフト	

第261図 45号横穴墓縦断土層及び遺物垂直分布図

262図3)、甕胴部片の破碎散布が認められた(Ⅸ層)。上・下層の漸移層で性状等は下層と同じであるが、若干風化する(Ⅷ層)。(3)基盤層の2次堆積土で風化の著しいものである。層中に提瓶2個(第262図5、6)と甕(第262図2)の一括埋置が認められた(Ⅵ層)。本層群は、第1次追葬時の埋土と考えられる。

第3層群(Ⅲ～Ⅴ・Ⅶ層)は羨門より墓道中央付近まで堆積している。最も厚い所は羨門付近で、約1m程堆積する。墓道中央付近では1号溝に、羨門付近では上層風化土層を第4層群によってそれぞれカットされている。本層群はさらに3層に分離される。下層より(1)精微な基盤層の2次堆積土である。羨門部全体を覆う最終堆積時の閉塞埋土である(Ⅶ層)。(2)基盤層の2次堆積土で下層(Ⅵ層)とは整合面をなし、上層とは漸層的に変化する。層中上面に若干の甕胴部片が認められた(Ⅳ・Ⅴ層)。(3)基盤層の2次堆積層で風化の著しいものである(Ⅲ層)。本層群は最終埋葬時の埋土と考えられる。

第4層群(Ⅰ・Ⅱ層)は羨門上面から墓道中央よりやや入口に近い最も厚い場所で50cm程堆積している。上面を近年の造成により、墓道中央付近を1号溝によってそれぞれカットされている。本層群はさらに2層に分離される。下層より(1)基盤層の2次堆積土でⅢ・Ⅳ層をカットして堆積する(Ⅱ層)。層中に坏身(第262図1)及び甕(第262図10)が破碎散布状態で検出された。なお甕片は42号、43号横穴墓出土の甕片と接合関係が認められる。(2)精微な基盤層の2次堆積土で著しく風化が進んでいる(Ⅰ層)。本層群は埋葬後の祭祀儀礼に関わる埋土と考えられる。

以上、墓道埋土の観察結果から本横穴墓では、最低3回の埋葬行為と最低1回の埋葬に関わらない祭祀儀礼行為が行われている。

2) 羨道、玄室

羨道は長さ約1.1m、玄門幅0.95mと羨門幅よりやや広くなる。玄室は長さ約2.1m、裾部幅約2.0m、中央最大幅約2.4m、奥壁幅1.9mのやや胴張りの隅丸方形を呈す。壁のコーナー部分が丸くおさめられ壁間の境は明瞭でない。床面には幅15cm、深さ10cm前後の排水溝が周壁および中央に設けられている。中央の溝は玄門付近で周壁溝と合流し、羨道・羨門中央を経て前庭部まで延びている。羨道、玄室床面はほぼ平坦であり、全体に人頭大の河原石を敷きつめている。この敷石の構築順序は、まず中央の排水溝上を前庭部まで配石し、その後左右に広げるように行っている。なお、右側壁の中央およびやや奥壁に寄った所に河原石をそれぞれ1個ずつ重ね枕石とする。天井部は玄室、羨道とも大きく崩落しており、高さは不明である。ドーム状を呈すと考えられる。

2. 遺物の出土状態

1) 玄室内

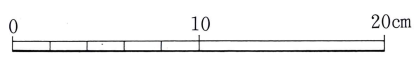
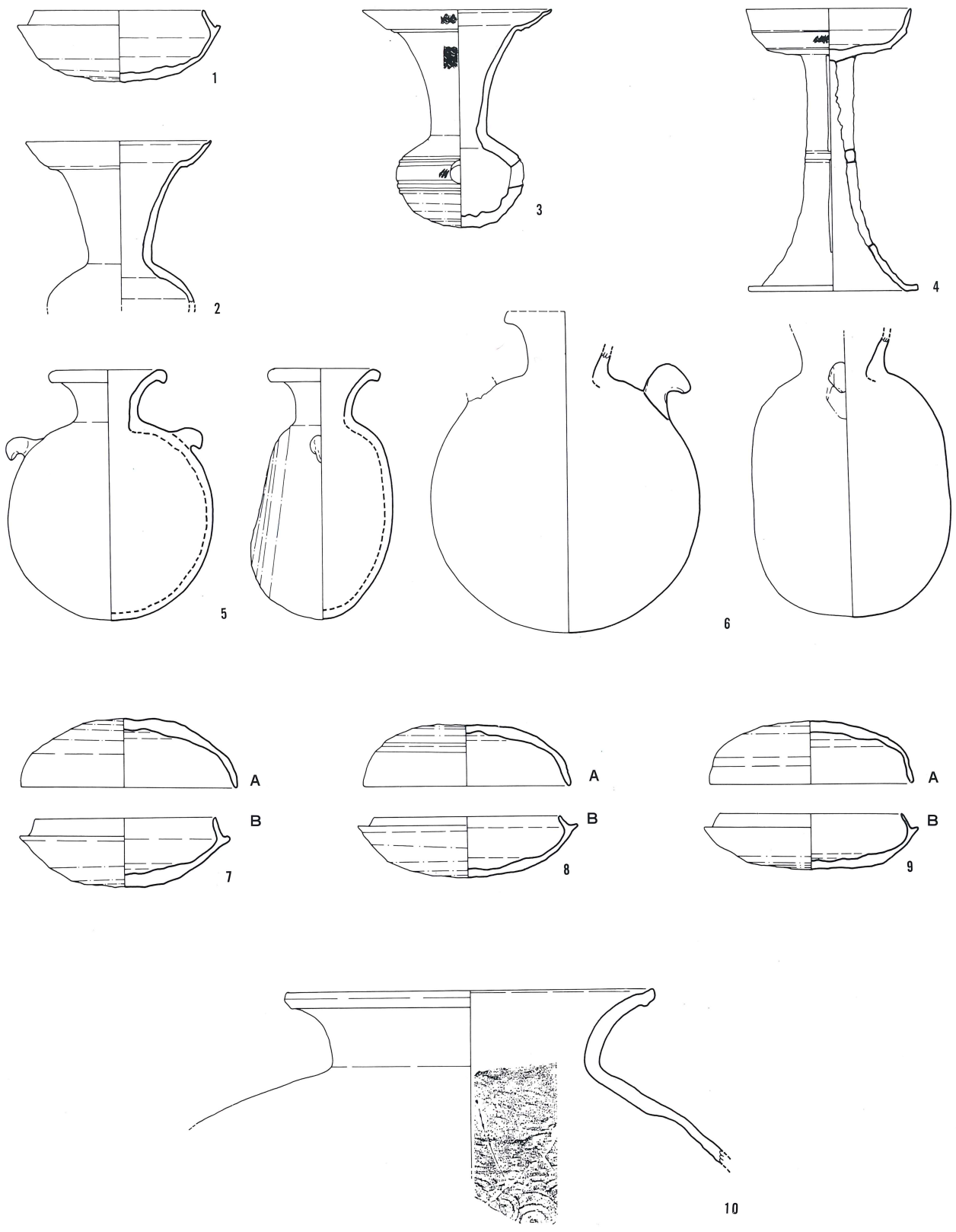
玄室内には大量の落盤土が見られたが、遺物はほぼ原位置で検出された。まず、土器は玄門付近右裾側で須恵器長頸埴(第263図12)が、右裾と右側壁コーナーで須恵器提瓶2個と甕(第265図11、15、16)が、中央奥壁寄りの右側壁側で須恵器長頸埴(第263図14)が、中央玄門寄りの左側壁側で土師器小型器台(第263図13)が、奥壁ぎわの左側壁側で須恵器壺がそれぞれ検出された。鉄器は中央右側壁ぎわの敷石下で刀子および鉄鏃(第264図26、28～30)が、奥壁と右側壁のコーナー付近で鉄鏃(第264図19、20、23)が、中央左側壁側で鉄鏃(第264図24)、中央奥壁ぎわの左側で鉄鏃および刀子(第264図18、21、22、25、27、31、32)がそれぞれ検出された。

なお、左側壁側で発見された土師器小型器台は口縁部および脚部の一部を欠損したものである。これは期的には4C中頃を前後するものであり、本横穴墓の築造時期とは全く違う遺物である。さらに、本横穴墓周辺にもこの時期に該当するような遺構は認められない。どのような経路をへて本横穴墓に副葬されたかさだかでない。

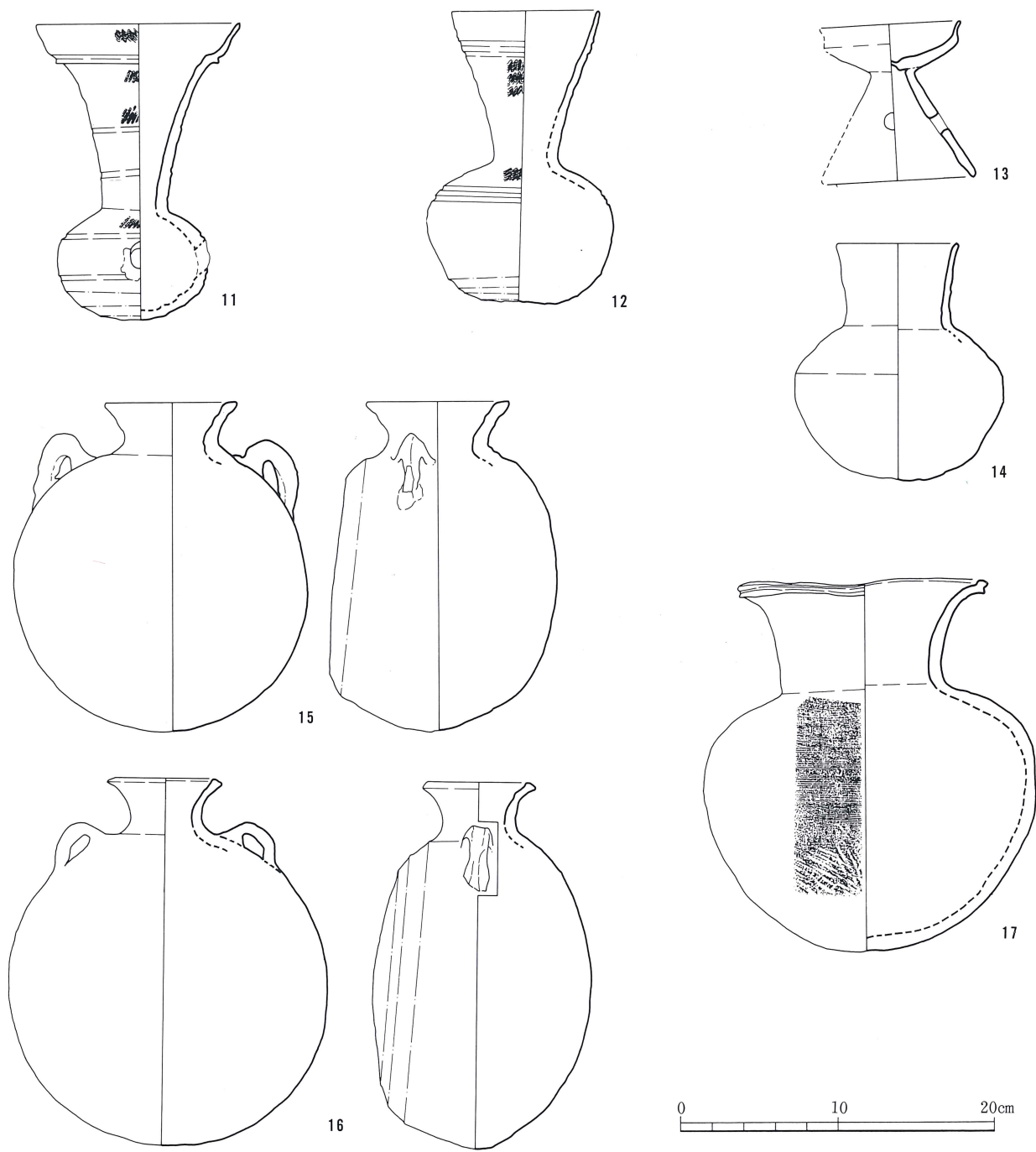
2) 墓道内

墓道内の遺物の出土層位については、墓道埋土の項で示した。ここでは出土状況について述べる。

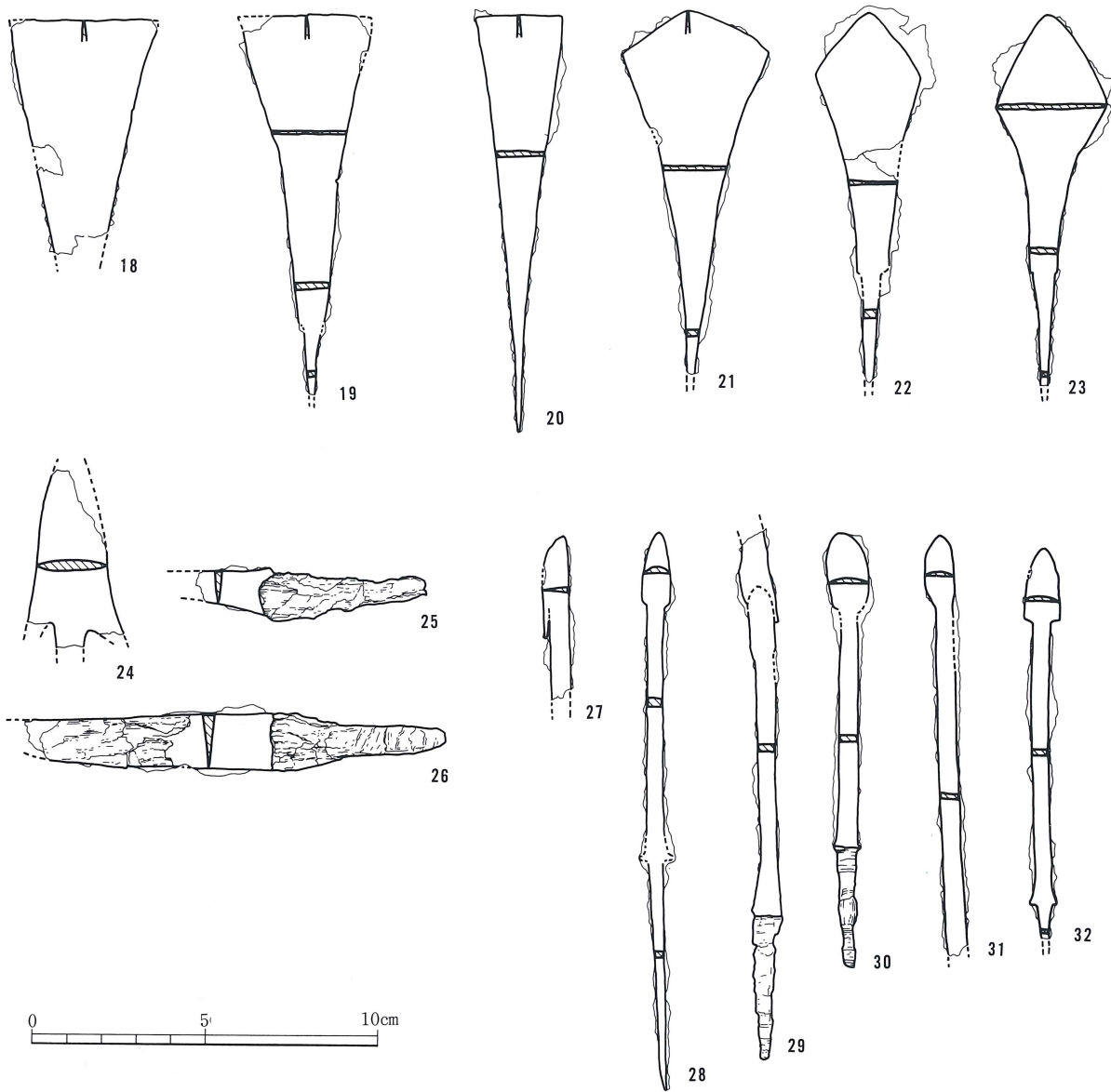
墓道入口より約1.5m羨門方向のほぼ中央に須恵器坏蓋・身が3対(第262図7～9)一括埋置状態で検出された。墓道部中央では須恵器提瓶2個および甕(第262図2、5、6)の一括埋置状態が検出された。さらに羨門付近では、高坏、甕(第262図3、4)の破碎散布状態と、墓道全体に甕や坏身(第262図1、10)の破碎散布状態がそれぞれ検出された。なお、前述したように甕は42号、43号横穴墓出土甕と接合する。(村上久和)



第262图 45号横穴墓出土遗物实测图(1)



第263图 45号横穴墓出土遗物实测图(2)



第264図 45号横穴墓出土遺物実測図(3)

第100表 45号横穴墓出土土器観察表

(単位：cm)

番号	器種	法量 ・口径 ・器高 ・胴部最大径	形態の特色	技法の特色					備考	ヘラ記号の有無
				内面	外面	色調	胎土	焼成		
1	坏身	・12 ・4.8 ・14.3	たちあがりは内傾してのび、端部は丸い。受部は上外方にのび、端部は丸い。底部は深く丸みをおびる。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケ ズリ	淡黄灰色	1～2mmの石英粒を含む	良好 堅緻		
2	甗	・13.1 ・11.6+α	口頸部は外反しながらのび、端部付近でさらに外反する。端部は内傾し段をなす。	回転ナデ	回転ナデ	黄灰色	白色砂粒を多量に含む	良好		

番号	器種	法量 ・口径 ・器高 ・胴部最大径	形態の特色	技法の特色					備考	ヘラ記号の有無
				内面	外面	色調	胎土	焼成		
3	罇	・13.4 ・15 ・9	口頸部は外反しながらのび、端部付近でさらに外反する。端部は不明瞭な段をなす。胴部は楕円形を呈し、外面に穿孔をはさむように2本ずつ沈線がある。	回転ナデ	回転ナデ 波状文 回転ヘラケズリ	黄灰色	細砂粒を含む	良好		
4	高坏	・11.7 ・19.7	坏部の口縁部は外反しながらのび、端部は丸い。外面に2ヶ所稜がみられる。坏部は浅い。脚部は下外方にのび、端部は面をなす。外面中央部に2本の沈線あり。長方形二段スカシがある。	回転ナデ	回転ナデ 波状文	灰青色	精緻	良好		
5	提瓶	・8.4 ・17.5 ・14.5	口頸部は外反しながらのび、端部は肥厚し丸みをおびる。胴部は円形を呈し、外面両肩に角状の把手がつく。	回転ナデ	回転ナデ 回転カキ目	青灰色	1～3mmの白色砂粒を多量に含む	良好		
6	提瓶	・— ・22.2 ・18.8	口頸部は外反しながらのび、端部は面をなす。胴部は円形を呈し、外面両肩に角状の把手がつくが一方は欠損している。	回転ナデ	回転ナデ 回転カキ目	褐色 赤褐色	1～2mmの白色砂粒をやや多量に含む	良好		
7 A	坏蓋	・15.2 ・4.7	口縁部は外反しながらのび、端部は丸い。天井部は高く丸みをおびる。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	灰色	石英粒を含むが精緻	良好 堅緻		
7 B	坏身	・12.8 ・4.8 ・14.9	たちあがりは内傾してのび、端部は丸い。受部は水平にのび、端部は丸い。底部は深く丸みをおびる。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	青灰色	石英粒、黒色砂粒を多量に含む	良好		
8 A	坏蓋	・14.4 ・4.2	口縁部は外反しながらのび、端部は丸い。天井部はやや高く丸みをおびる。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	灰色 青灰色	1mm大の石英粒を含む	良好 堅緻		
8 B	坏身	・13.2 ・4.2 15.5	たちあがりは内傾してのび、端部は丸い。受部は上外方にのび、端部は丸い。底部は深く丸みをおびる。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	青灰色	1～2mm大の砂粒を含む	良好 堅緻		
9 A	坏蓋	・14.3 ・4.4	口縁部は外反しながらのび、端部付近で肥厚し丸い。天井部は高く丸みをおびる。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	灰色	1mm大の石英粒を多量に含む	良好 堅緻		
9 B	坏身	・13 ・3.9 ・15.2	たちあがりは内傾してのび、端部は丸い。受部は水平にのび、端部は丸い。底部は浅くやや平らである。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	青灰色	1～3mm大の石英粒を多量に含む	良好 堅緻		
10	甕	・23 ・12+α	口頸部は外反しながらのび、端部は肥厚し面をなす。	回転ナデ 同心円タタキを軽くナデ消す	回転ナデ 器面が磨減しているため調整不明	明青灰色	0.5～2.5mmの白色砂粒をやや多量に含む	良好		
11	罇	・12.9 ・18.5 ・9.7	口頸部は外反しながらのび、端部付近でさらに外反し、その外面に1本の沈線をなす。頸部外面に2ヶ所2本の沈線がある。胴部は楕円形を呈し、外面に穿孔をはさむように2本の沈線あり。底部は丸みをおびる。	回転ナデ	回転ナデ 波状文 櫛描列点文 回転ヘラケズリ	暗紫色 赤紫色	石英粒を多量に含む	良好		

番号	器種	法量	形態の特色	技法の特色					備考	ヘラ記号の有無
		口径 器高 胴部直径		内面	外面	色調	胎土	焼成		
12	長頸壺	・9.4 ・18.5 ・12	口頸部は外反しながらのび、端部は丸い。外面端部に2本の沈線がある。胴部はほぼ円形を呈し外面底部に2本の沈線がある。底部はやや平らである。	回転ナデ	回転ナデ 波状文 回転カキ目 回転ヘラケズリ	青灰色 黒灰色	石英の細砂粒を含む	良好		
13	器台	・9.1+α ・10	口縁部は外反しながらのび、端部は丸い。外面は丸みをおびた後がみとめられる。細部は下外方にまっすぐのび、端部は丸い。脚部中央部に穿孔あり。	器面が磨滅しているため調整不明	器面が磨滅しているため調整不明	淡赤橙色	角閃石、その他の砂粒をやや多量に含む	良好	土師器	
14	壺	・7.7 ・14.9 ・13.4	口縁部はほぼ直立してのび、端部は丸い。胴部はやや丸みを呈し、底部も丸みをおびる。	ヨコナデ	ヨコナデ後 ヘラミガキ ヘラケズリ ハケ目	黄褐色	石英粒を多量に含む	不良	土師器	
15	提瓶	・8.4 ・20.6 ・18.6	口頸部は外反しながらのび、端部は面をなし丸い。胴部は円形を呈し、両肩に環状の把手がつく。	回転ナデ	回転ナデ 回転カキ目 回転ヘラケズリ	灰色	石英粒を含む	良好		
16	提瓶	・7.2 ・23 ・20.2	口頸部は外反しながらのび、端部は面をなす。胴部は円形を呈し、外面両肩に環状の把手がつく。	回転ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	灰青色 黄灰色	石英粒を含む	良好		
17	壺	・15.6 ・23.4・21	口頸部は外反しながらのび、端部は凹面をなす。胴部はほぼ内形を呈す。	回転ナデ 同心円タタキ	回転ナデ 回転カキ目 平行タタキ	灰色	精緻	良好		

第101表 45号横穴墓出土鉄器観察表

(単位：cm)

番号	器種	全長	頸部長(刀部)	刃幅	頸幅	刃部厚	頸厚	備考
18	鉄鏃	6.6以上	6.6以上	4.2	不明	0.15	不明	
19	同上	10.8以上	8.7	3.8	0.4	0.15	0.2	
20	同上	11.8	7.0	2.4	0.35	0.2	0.2	
21	同上	10.3以上	8.5	4.2	0.3	0.15	0.2	
22	同上	10.5以上	7.4	2.9	0.45	0.1	0.25	
23	同上	10.5以上	7.3	3.1	0.3	0.15	0.2	
24	同上	5.0以上	4.4以上	2.0	0.75	0.2	不明	
25	刀子	6.6以上	2.2以上	0.9	不明	0.2	不明	木質柄残存
26	同上	12.0以上	7.0以上	1.6	不明	0.3	不明	木質鞘、柄残存
27	鉄鏃	4.6以上	2.9	0.75	0.5	0.2	不明	
28	同上	15.9	2.1	0.8	0.5	0.25	0.3	
29	同上	13.4以上	2.1	0.75	0.5	不明	0.25	木質残存
30	同上	12.3	2.1	1.1	0.55	0.15	0.2	木質残存
31	同上	11.9以上	1.9	0.85	0.55	0.15	0.2	
32	同上	11.1以上	2.1	1.0	0.5	0.15	0.2	

46号横穴墓

1. 立地、調査前の状況

46号横穴墓は、北支群の南側に位置し、斜面上位にある。西方向に開口し、開口部の標高は約34m前後である。全長は、3.95mを測り、主軸はN-56.5°-Eにとる。調査前の状況は、近年の造成、民家の建設などによって羨道～玄室天井部が、陥没し横穴墓の存在を示す落ち込みが認められた。調査は前庭部プランの確認、同埋土の検討、閉塞施設の調査、上部テラス状遺構の検出を行った。テラス状遺構は、県道および民家の建設によって攪乱されており、確認できなかった。

2. 規模、構造

1) 前庭部、羨門部

a) 規模、構造 前庭部は長さ1.92m、幅は入口付近で0.5m、羨門付近で1.05mを測る。前庭部床面はほぼ平坦で、羨門に向かって約1～2°の傾斜で下る。側壁の傾斜は、両壁とも約50°前後を測る。羨門部は完全に落盤しており、形状等不明である。

閉塞施設は、最終埋葬時の様相であり、板石と河原瓦礫、地山礫等を用いて構築されている。まず羨門の下部に板石（赤色顔料が下面に見られることから初葬時の閉塞石と考えられる。）を1個置き、基底部を整える。閉塞の配石は次の3工程に分けられる。第1工程は、内面に赤色顔料を塗布した大形の安山岩製板石2枚を使用し羨門を覆う。第2工程は、小形の板石5個で、1群の支えとしている。第3工程は、人頭大の河原石および地山円礫15個前後で第2工程の配石や土器群を支え、隙間を覆う。以上の配石によって面積・体積ともに前庭部の約1/3程度が埋る。この配石、土器埋置後に前庭部全体を覆うように埋土がなされる。

b) 前庭部内埋土 前庭部内の堆積土はその性状から、比較的明瞭な層区分が可能であり、全体で3層群に分層できた。以下堆積順に説明する。

第1層群（Ⅲ層）は前庭部入口付近から羨門の基底部上面まで約0.7mの範囲に、厚さ10cm前後で水平に第2層群によって削平されている。層中に土師器の配列埋置が認められた。本層は初葬時の埋土と考えられる。

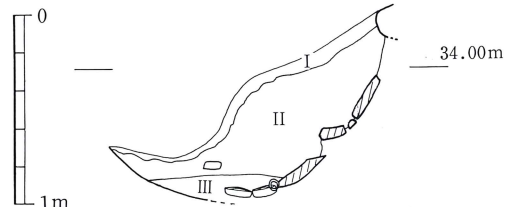
第2層群（Ⅱ層）は前庭部入口付近から閉塞石まで約1.5mの範囲に厚い所で約90cm程レンズ状に堆積する。性状は、基盤層の2次堆積土であり上面が若干風化する。本層は追葬時の閉塞埋土と考えられる。

第3層群（Ⅰ層）は第2層群の上面に堆積した風化土層である。

以上の土層観察結果から本横穴墓では少なくとも2度の埋葬が行われたと推定されるとともに、配列埋置の土器群は初葬時に関わるものであることが判明した。

2) 羨道、玄室

羨道部は床面で長さ2.0m、玄門幅0.56mを測る。床面はほぼ水平に玄室に向う。天井は崩落し、形状等不明である。玄室は長さ1.6m、最大幅2.16mの平入り隅丸長方形を呈している。天井は中央付近が大きく崩落しており、高さは不明であるが、形態はドーム状を呈するものと考えられる。床面には5cm前後の埋土を行い死床面としており、礫床等特別な施設はない。両側壁および奥壁際に幅10～15cm前後、深さ5～10cm前後の壁溝を巡らしている。また、奥壁寄り右側壁付近で径15cmの範囲に赤色顔料の痕跡が認められ、頭位部分と考えられる。



46号横穴墓土層観察表

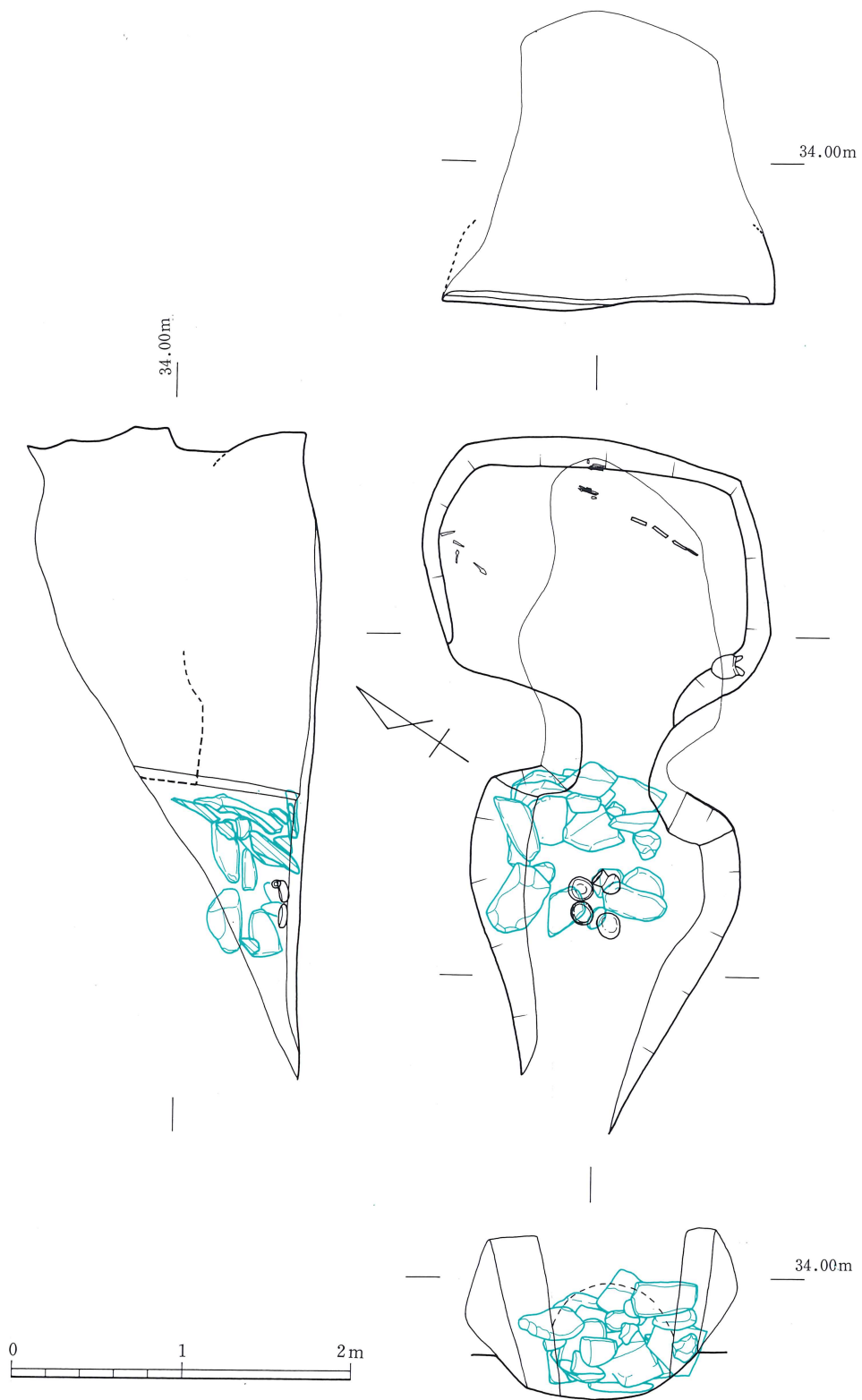
層	色調	主な特色	硬さ	評価・解釈
I	暗茶褐色	粘質土層	ハード	風化が進んでいる
II	暗茶褐色	粘質土層	ハード	追葬埋土
III	黄褐色	粘質土層	ハード	初葬埋土、下面に土器を含む

3. 遺物の出土状態

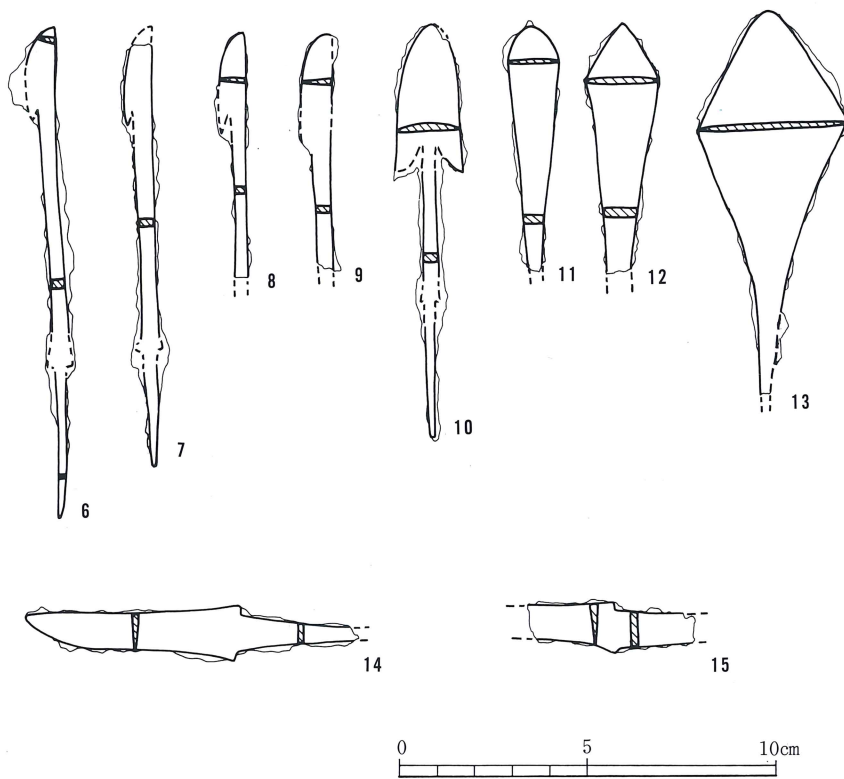
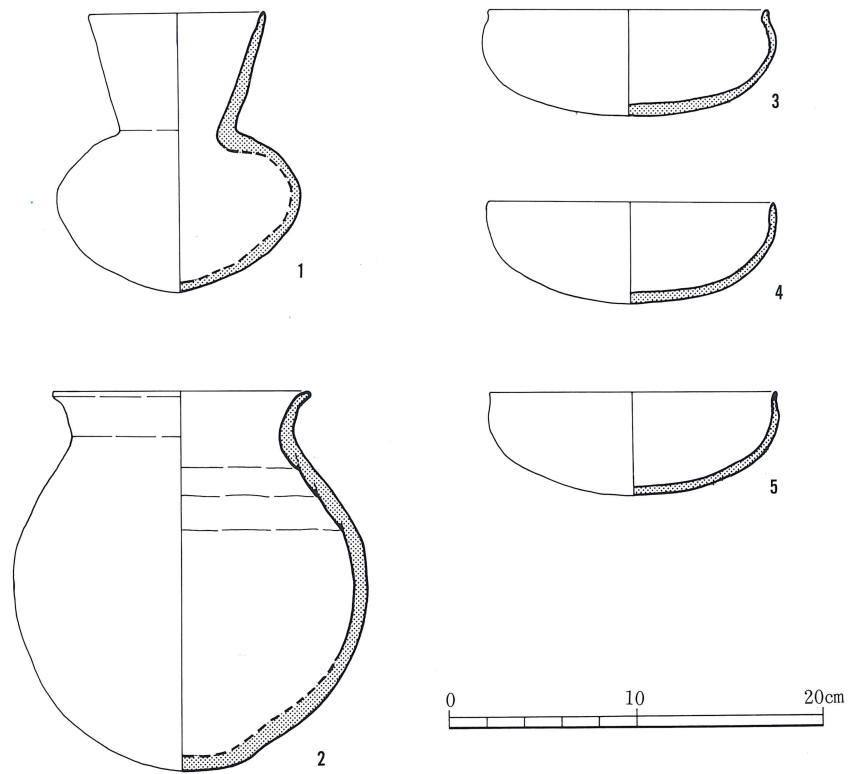
1) 玄室内

玄室内には天井部の崩落土がかなり見られたがほぼ原位置で遺物が検出された。まず、奥壁寄り右側壁付近の赤色

第265図 46号横穴墓縦断土層図



第266图 46号横穴墓平·断面图



第267图 46号横穴墓出土遺物実測図

顔料出土地点付近で折れた状態で直刀が、中央奥壁際で刀子1本（第267図14）と刃先を左側壁に向けた鉄鏃群2群（第267図6～9）を検出した。さらに、中央左側壁際に方向不定の鉄鏃4本（第267図10～13）が、右側壁と裾壁コーナー付近でススの付着した土師器甕（第267図2）が検出された。

2) 前庭部内

前庭部の遺物出土層位については埋土の項で示したので、ここでは出土状況について述べる。前庭部の羨門寄り中央の閉塞石下面において土師師坑3個、同長頸埴1個（第267図1、3～5）が配列埋置の状態検出された。羨門に向って左側2個の埴は正置に、右側の埴は伏せた状態で、長頸埴は横転した状態であった。（村上久和）

第102表 46号横穴墓出土土器観察表

(単位：cm)

番号	器種	法量 ・口径 ・器高 ・胴部最大径	形態の特色	技法の特色					備考	ヘラ記号の有無
				内面	外面	色調	胎土	焼成		
1	埴	・14.8 ・5.5 ・15.6	口縁部は内湾しながらのび、端部付近で外反し、端部は丸い。底部は深く丸みをおびる。	回転ナデ ヘラミガキ	器面が磨減しているため調整不明	赤褐色	石英、長石粒を含む	良好	土師器	
2	埴	・15 ・5.3	口縁部はほぼ直立してのび、端部は丸い。底部は深く丸みをおびる。	ナデ	ナデ	赤褐色	精緻	良好	土師器	
3	埴	・15 ・5.4	口縁部はほぼ直立してわずかに内湾ぎみにのびる。底部は深く丸みをおびる。	器面が磨減しているため調整不明	器面が磨減しているため調整不明	赤褐色 黄褐色	精緻	やや良好	土師器	
4	壺	・9.2 ・14.6 ・13	口縁部は外反しながらのび、端部は丸い。胴部はよく張り、底部はとがりぎみである。	ヘラミガキ	ナデ 静止ヘラケズリの上からヘラミガキ	赤褐色	1～2mmの石英、長石粒を含む。	良好	土師器	
5	甕	・13.8 ・19.8 ・18.6	口頸部は外反しながらのび、端部は丸い。胴部はほぼ長円形を呈し、底部は丸みをおびる。	ヨコナデ	タタキ ヨコナデ	黄褐色 赤褐色	石英、角閃石、長石粒を含む	良好	土師器	

第103表 46号横穴墓出土鉄器観察表

(単位：cm)

番号	器種	全長	頭部長(刀部)	刃幅	頸幅	刃部厚	頸厚	備考
6	鉄鏃	12.8	2.4	0.8	0.4	0.2	0.25	
7	同上	11.2以上	2.1以上	0.7	0.4	不明	0.2	
8	同上	6.4以上	2.2	0.7	0.4	0.15	0.2	
9	同上	6.3以上	3.0	0.8	0.4	0.2	0.25	
10	同上	10.9	3.9	1.6	0.35	0.2	0.2	
11	同上	6.4以上	4.0	1.3	0.4	0.15	0.2	
12	同上	6.6以上	5.5	1.9	0.7	0.2	0.3	
13	同上	10.1以上	9.1	4.0	0.3	0.2	不明	
14	刀子	8.7以上	5.6	1.0	0.5	0.15	0.1	
15	同上	4.4以上	2.3以上	0.9	0.9	0.2	0.2	